

令和元年度調査

男女間における暴力に関する調査
報 告 書

令和 2 年 3 月

山 口 県

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	実施主体	1
3	協力機関	1
4	調査設計	1
5	調査内容	1
6	本報告書を読む際の注意	1
7	回答者の属性	2

II 調査結果

i	調査結果のまとめ	7
ii	調査結果の概要	9
1	「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(配偶者暴力防止法)」の認知度	9
2	相談窓口の周知度	12
3	配偶者からの暴力と認識される行為	15
4	配偶者からの暴力の被害経験	21
5	配偶者からの暴力の被害に対する相談	31
6	配偶者からの暴力の被害を受けたときの行動	35
7	配偶者からの暴力による命の危険を感じた経験	37
8	子どもの被害経験	38
9	交際相手の有無	40
10	交際相手からの暴力の被害経験	42
11	交際相手からの暴力の被害に対する相談	46
12	交際相手からの暴力の被害を受けたときの行動	50
13	交際相手からの暴力による命の危険を感じた経験	52
14	性暴力の被害経験	53
15	性暴力の被害に対する相談	56
16	やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」の周知度	59
17	特定の相手からのつきまとい行為	61
18	男女間の暴力をなくすための方法	63

I 調査の概要

1 調査の目的

男女間の暴力に関する県民の意識、被害の経験の態様、程度及び被害の潜在化の程度、理由等を把握し、その結果を「山口県配偶者暴力等対策基本計画」に活用するとともに、今後の施策推進の基礎資料とする。

2 実施主体

山口県

3 協力機関

県内各市町

4 調査設計

- (1) 調査対象 山口県内居住の満 18 歳以上の男女各 1,500 人 計 3,000 人
- (2) 抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出
(市町別、年齢別に人口比による割当)
- (3) 調査時期 令和元年 9 月 12 日(木)～10 月 4 日(金)
- (4) 調査方法 郵送法
- (5) 回収数(率)

計	1,172(39.1%)
男性	513(34.2%)
女性	656(43.7%)
その他	0
無回答	3

5 調査内容

- (1) 回答者の属性
(性別、年齢、未既婚、子どもの有無)
- (2) 配偶者からの暴力について
- (3) 交際相手からの暴力について
- (4) 性暴力について
- (5) 男女間の暴力について
(つきまとい行為、男女間暴力根絶のための対応策)

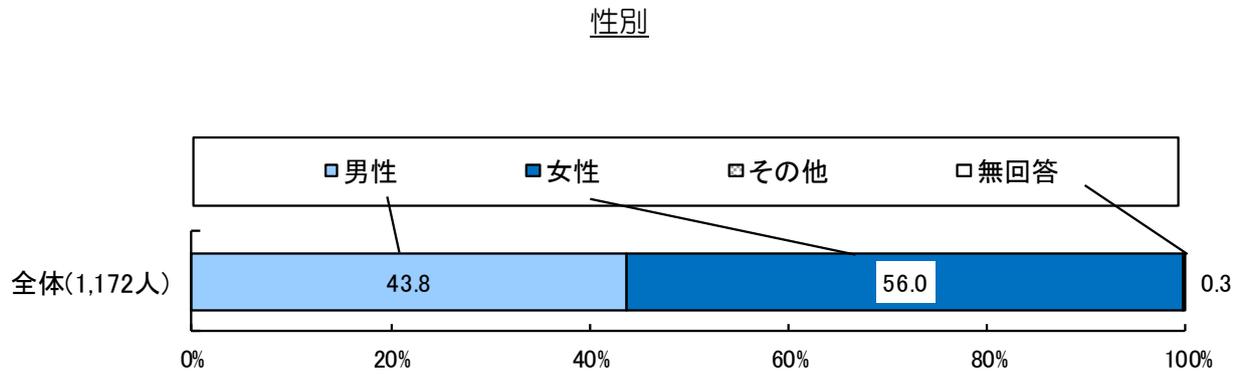
6 本報告書を読む際の注意

- (1) 結果数値(%)は、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、内訳の合計が計に一致しない場合がある。
- (2) 1 人の対象者に 2 つ以上の回答を認めた設問では、内訳の合計が 100%を超える場合がある。
- (3) 今回の調査は、次の資料と比較している。
内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成 29 年 12 月調査)
山口県「男女間における暴力に関する調査」(平成 26 年 9 月調査)

7 回答者の属性

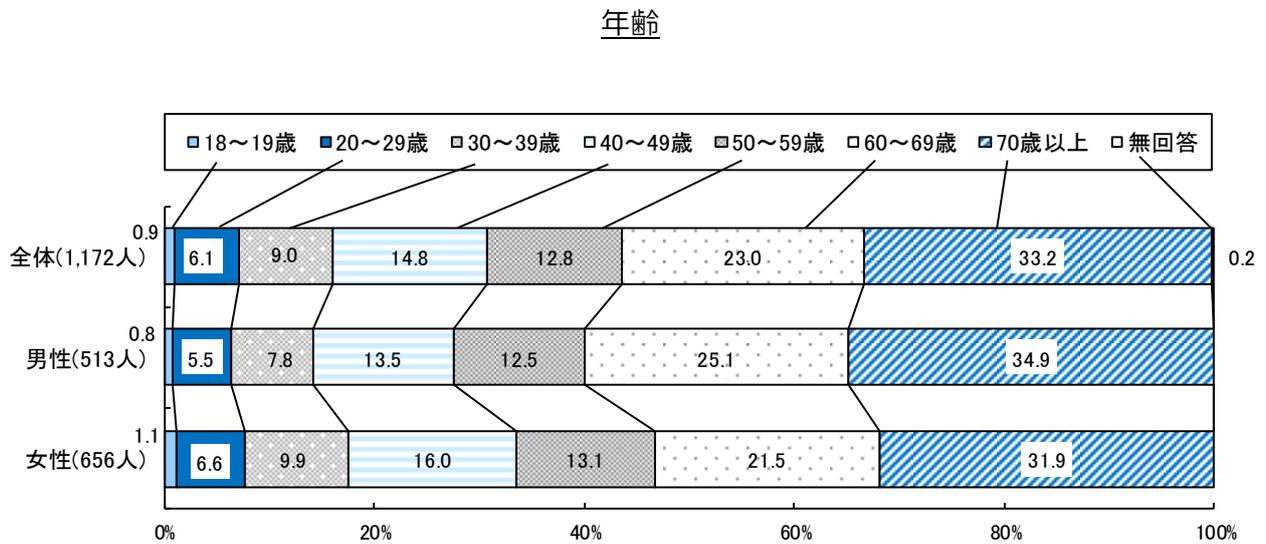
(1) 性別

F 1 あなたの性別は (○はひとつだけ)



(2) 年齢

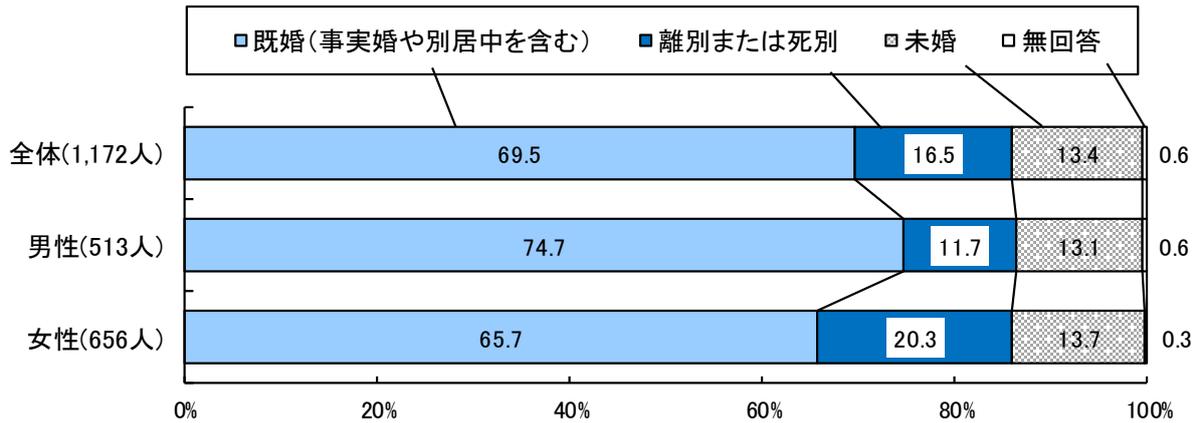
F 2 あなたの年齢は (○はひとつだけ)



(3) 未既婚

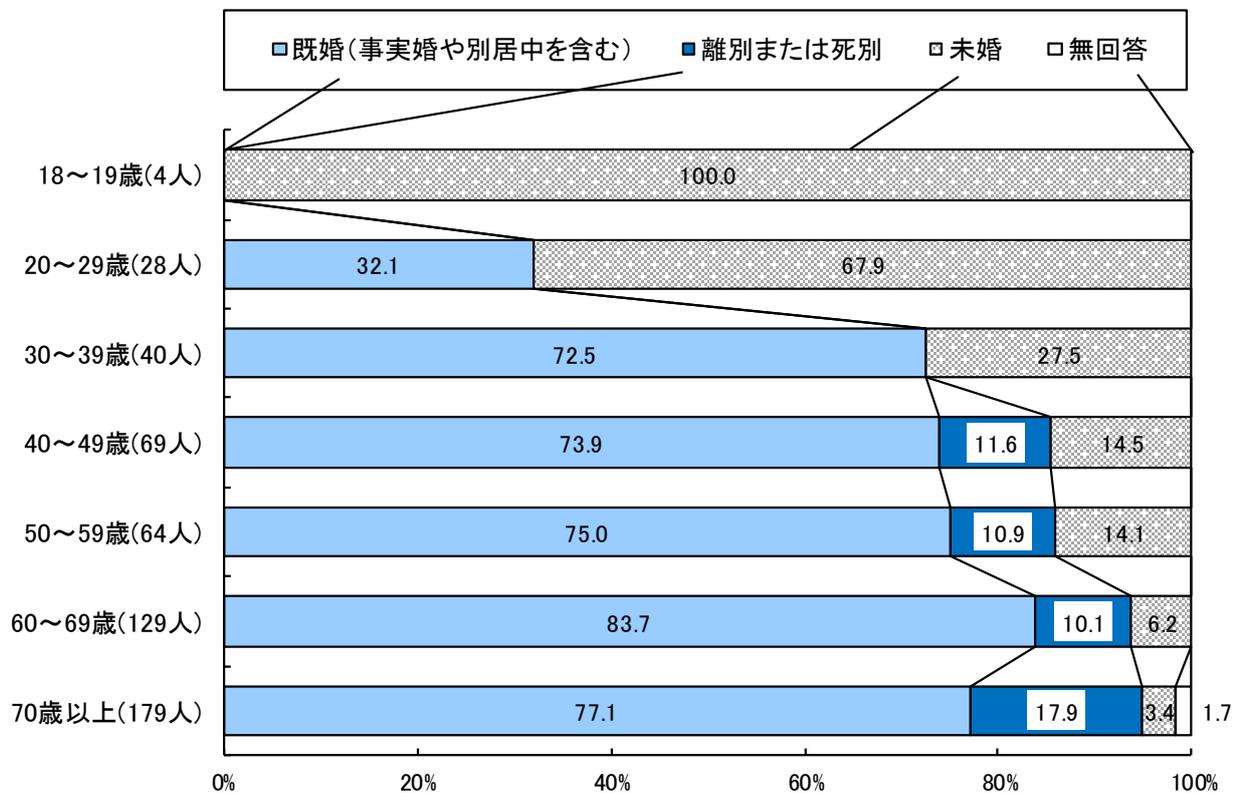
F 3 あなたは、次のうちどれにあてはまりますか (○はひとつだけ)

未既婚

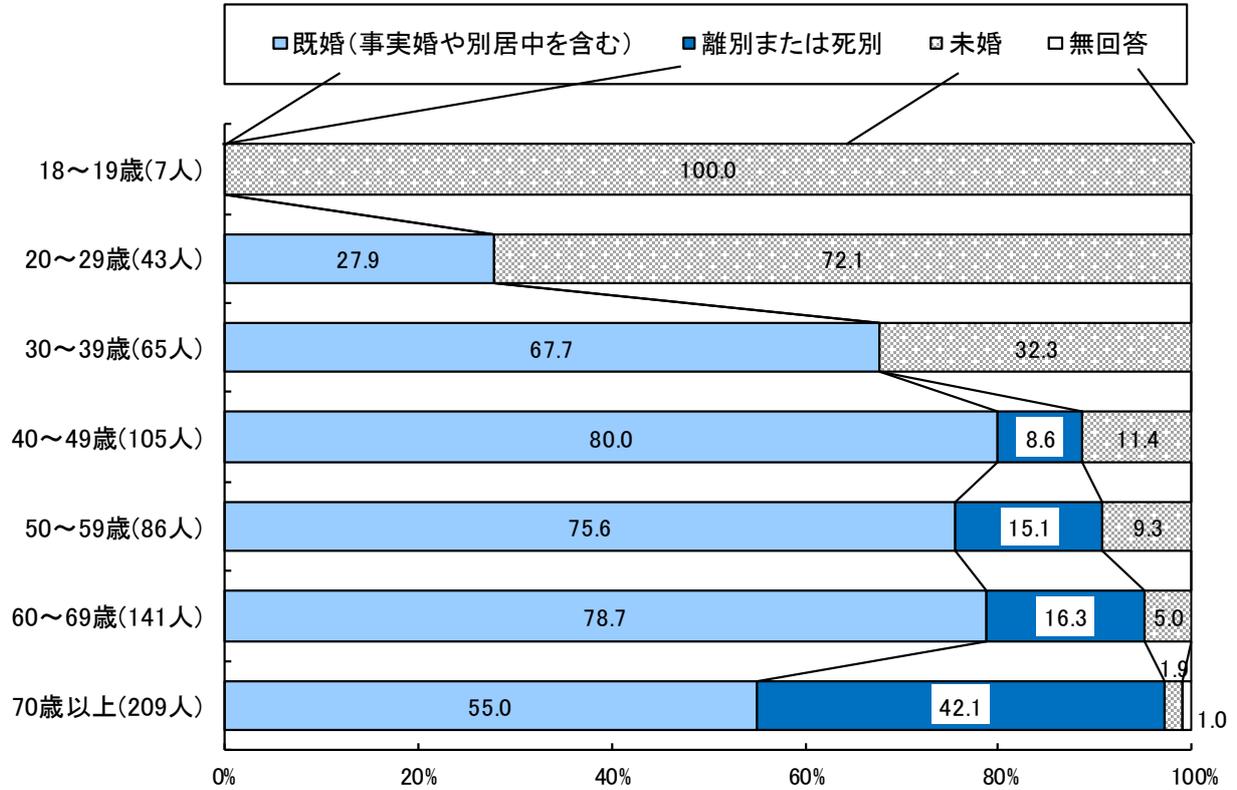


未既婚(性・年齢別)

男性



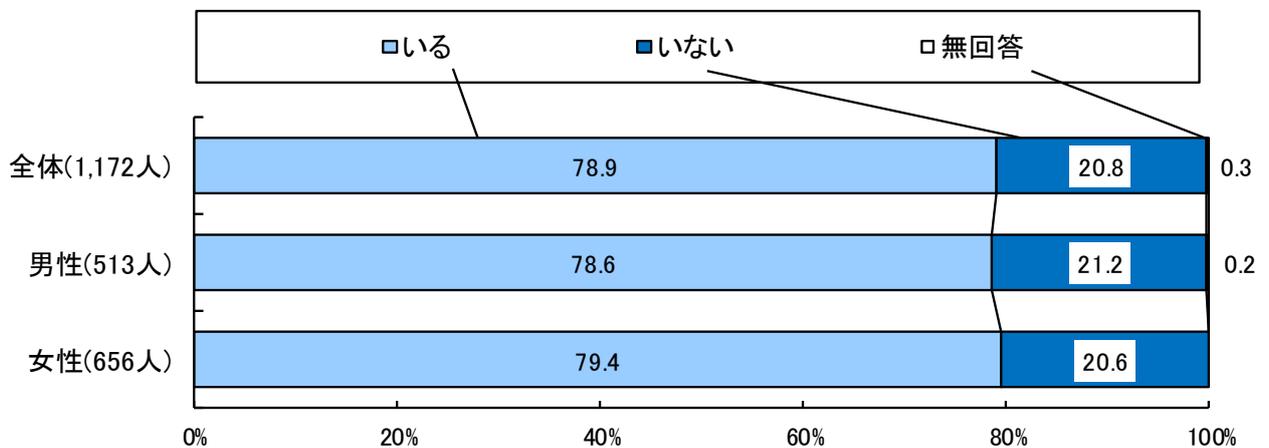
女性



(4) 子どもの有無

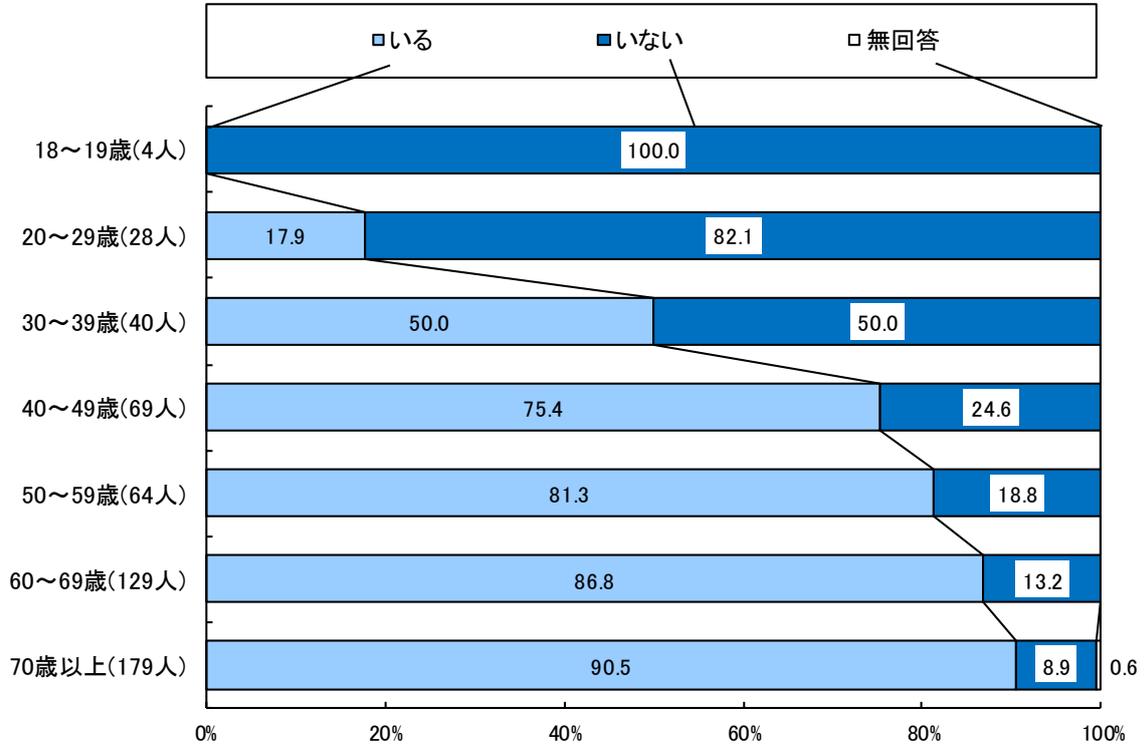
F 4 あなたには、お子さんがいらっしゃいますか (別居、独立したお子さんも含む)
(○はひとつだけ)

子どもの有無

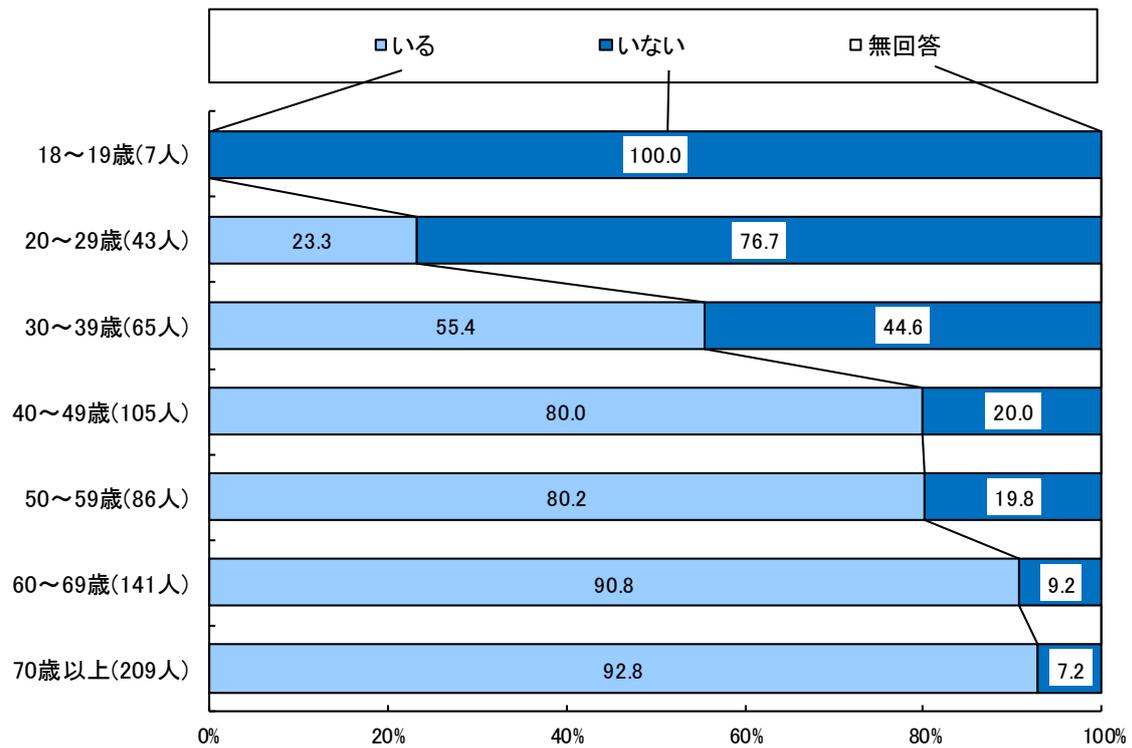


子どもの有無(性・年齢別)

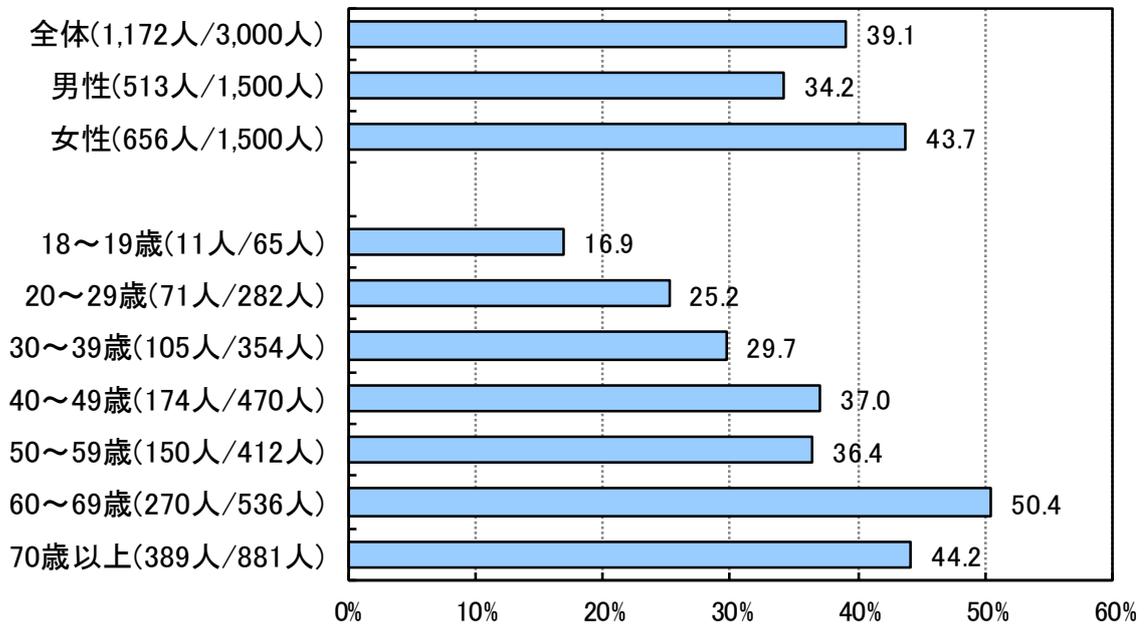
男性



女性



【参考：性別、年齢別回収率の状況】



II 調査結果

i 調査結果のまとめ

- 「配偶者暴力防止法」の認知度：8割を超える (II-i 調査結果の概要1参照)
 - ・「配偶者暴力防止法」について、「法律があることも、その内容も知っている」は16.0%、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」は64.4%で、合わせて「知っている」は80.4%となっている。

 - 相談窓口の周知度：「警察」が最も高い (II-i 調査結果の概要2参照)
 - ・配偶者からの暴力についての相談窓口の周知度は、「警察」が82.3%と最も高い。
 - ・「山口県男女共同参画相談センター(配偶者暴力相談支援センター)」は、前回(H26)の26.7%から25.1%と1.6ポイント低下。

 - 配偶者からの暴力と認識される行為：すべての行為で暴力の認知度が上昇 (II-i 調査結果の概要3参照)
 - ・性的行為の強要や大声でどなるといった身体的暴力でない行為も含め、すべての行為において、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が前回(H26)より上昇。

 - 配偶者からの暴力の被害経験：約4人に1人が被害経験あり (II-i 調査結果の概要4参照)
 - ・配偶者からの暴力の被害経験は26.8%で、男性20.1%、女性32.1%と男女で開きがある。
 - ・被害経験は前回(H26)の22.0%から26.8%と4.8ポイント上昇。

 - 配偶者からの暴力の被害に対する相談：約6割がどこ(だれ)にも相談していない (II-i 調査結果の概要5参照)
 - ・配偶者からの暴力の被害者で、60.8%の人がどこ(だれ)にも相談していない。特に、男性は相談していない割合が高い(男性76.7%、女性54.2%)。
 - ・相談先は家族や親戚、友人・知人が多く、行政機関の相談窓口は少ない。

 - 配偶者からの暴力の被害を受けたときの行動：女性の約6割が別れたいと思ったが、相手と別れたのは1割強 (II-i 調査結果の概要6参照)
 - ・被害を受けた女性の58.0%が「別れたい(別れよう)」と思っており、そのうち14.9%は別れているが、男性の40.4%は「別れたい(別れよう)」とは思わなかった。
 - ・配偶者と別れなかった理由は、男女とも「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」が最も高い。

 - 命の危険を感じた経験：約1割が経験あり (II-i 調査結果の概要7参照)
 - ・配偶者からの暴力の被害経験がある人のうち、命の危険を感じた人は11.9%で、男性3.4%、女性16.0%と男女で開きがある。
-

○ **子どもの被害経験：被害を受けたことがある家庭の約2割は子どもへの被害もみられる**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要8参照)

- ・配偶者からの暴力の被害経験があり、子どもがいる人の23.8%は、子どもにも何らかの被害がある。
- ・子どもの被害経験は、「心理的虐待」が最も多い。

○ **交際相手からの暴力の被害経験：約6人に1人が被害経験あり** (Ⅱ－ii 調査結果の概要10参照)

- ・交際相手からの暴力の被害経験は16.9%で、男性10.0%、女性22.3%と男女で開きがある。
- ・被害経験は前回(H26)の13.5%から16.9%と3.4ポイント上昇。

○ **交際相手からの暴力の被害に対する相談：約5割がどこ(だれ)にも相談していない**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要11参照)

- ・交際相手からの暴力の被害者で、50.8%の人がどこ(だれ)にも相談していない。
- ・交際相手からの暴力に関する相談は、配偶者間の場合と異なり、家族や親戚より、友人・知人の方が多い。

○ **交際相手からの暴力の被害を受けたときの行動：約4割が相手と別れた**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要12参照)

- ・被害を受けた43.8%が交際相手と別れており、男性の38.2%、女性の45.8%が別れている。

○ **命の危険を感じた経験：約2割が経験あり**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要13参照)

- ・交際相手からの暴力の被害経験がある人のうち、命の危険を感じた人は22.3%で、男性11.8%、女性26.0%と男女で開きがある。

○ **性暴力の被害経験：女性の約4人に1人が被害経験あり**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要14参照)

- ・性暴力の被害経験は15.2%で、男性1.0%、女性26.4%と男女で開きがある。
※性暴力：性交、身体を触られる、痴漢、盗撮などの同意のない・望まない性的な行為

○ **性暴力の被害に対する相談：約6割がどこ(だれ)にも相談していない**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要15参照)

- ・性暴力の被害者で、56.2%の人がどこ(だれ)にも相談していない。
- ・相談先は友人・知人、家族や親戚が多く、行政機関の相談窓口は少ない。

○ **やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」の周知度：50歳代までの女性は約1割**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要16参照)

- ・やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」を知っている人は6.1%となっている。
- ・50歳代までの女性の約1割が知っていると回答している。

○ **男女間における暴力をなくすために必要なこと**

(Ⅱ－ii 調査結果の概要18参照)

- ・男女間における暴力をなくすために必要なことは「社会のあらゆる分野で人権尊重や暴力を許さない意識を醸成するための啓発を行う」(53.7%)が最も高く、次いで「学校における男女平等や人権についての教育を充実させる」(53.1%)の順となっている。

ii 調査結果の概要

1 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(配偶者暴力防止法)」の認知度

(「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。以下、同様)
問1 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(配偶者暴力防止法)」を知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はひとつだけ)

(図 1-1)

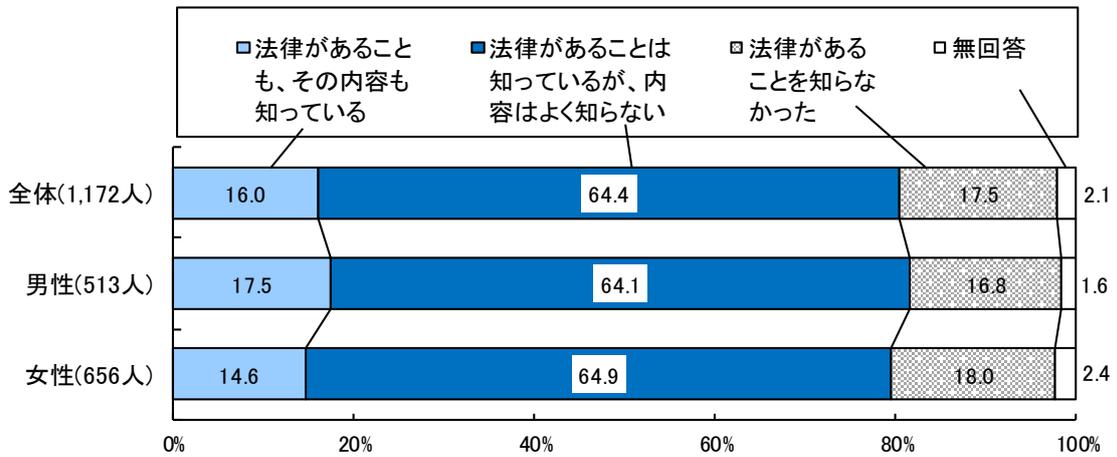
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(以下、「配偶者暴力防止法」という。)を知っているか聞いたところ、『法律を知っている』という人は 80.4%(「法律があることも、その内容も知っている」16.0%+「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」64.4%)となっている。これに対し、「法律があることを知らなかった」という人は 17.5%となっている。

性別にみると、認知度は男性の方が高くなっている。

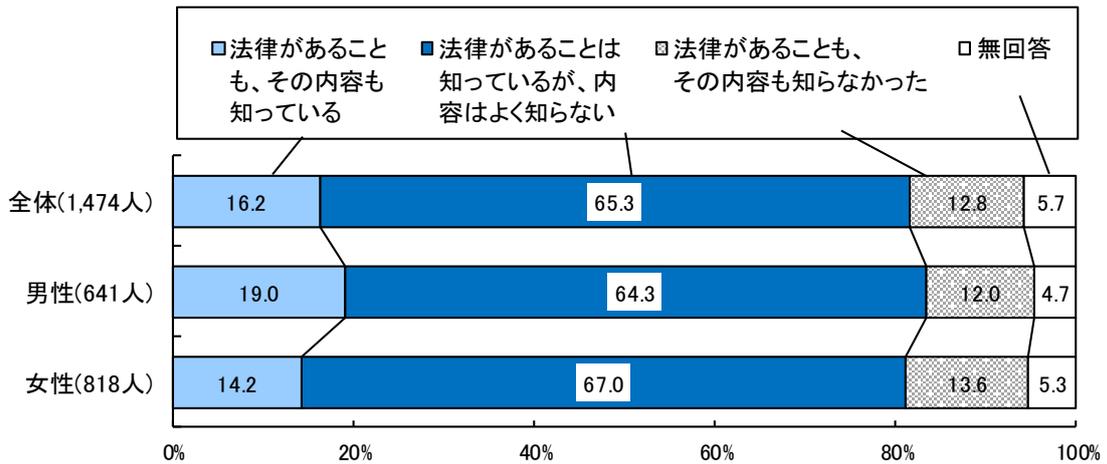
前回(H26)の調査結果と比較してみると、「法律があることも、その内容も知っている」(16.2%→16.0%)、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」(65.3%→64.4%)がともに低下している。

全国(H29)の調査結果と比較してみると、認知度は全国の調査結果の方が高くなっている。

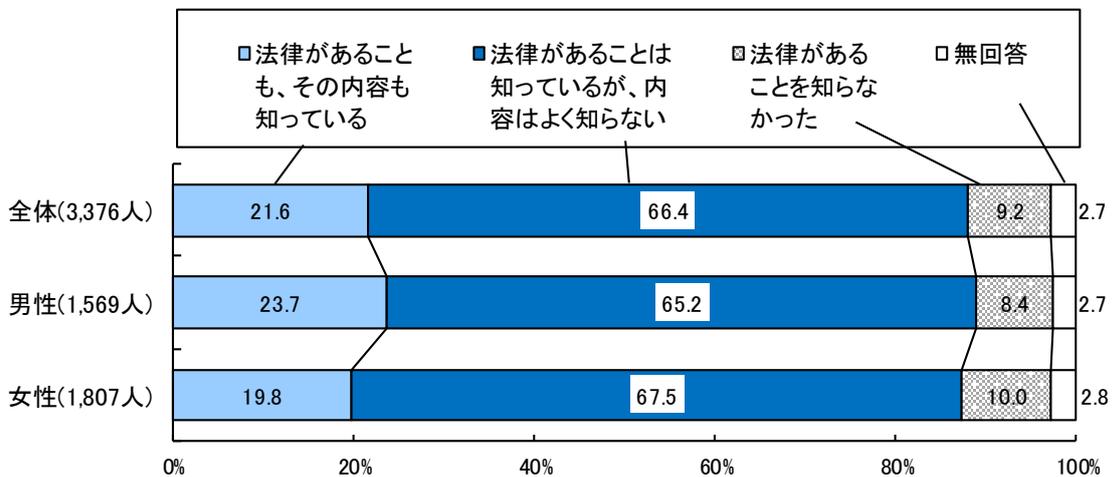
図 1-1 配偶者暴力防止法の認知度



前回調査 (H26)



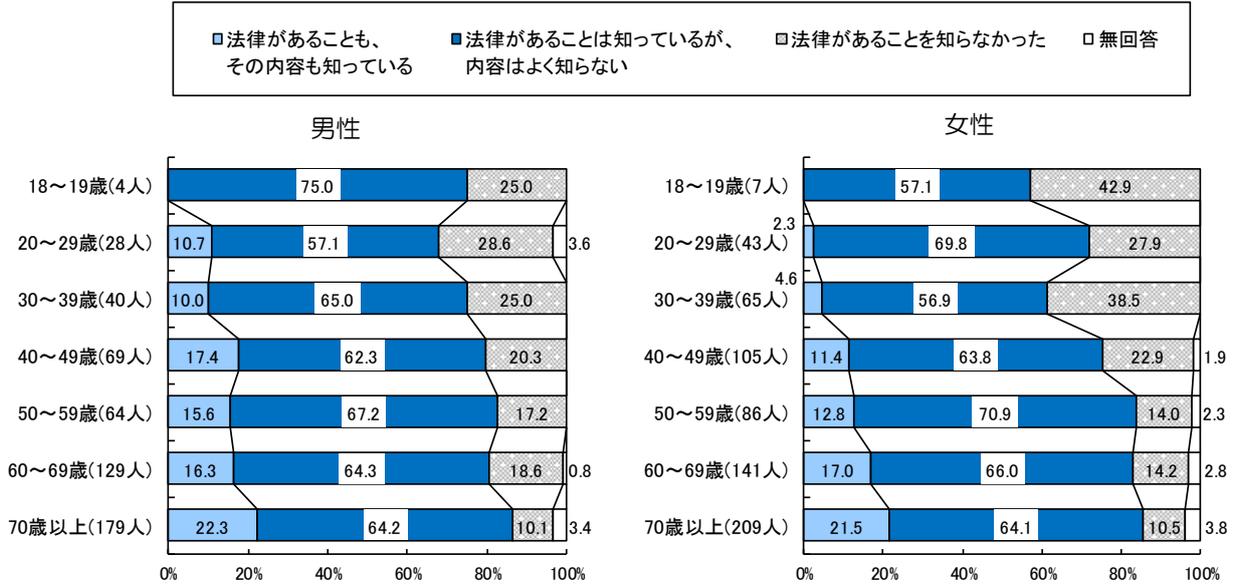
内閣府調査 (H29)



(図 1-2)

性・年齢別にみると、「法律があることも、その内容も知っている」という人は、男女とも年代が上がるほど高くなっている。

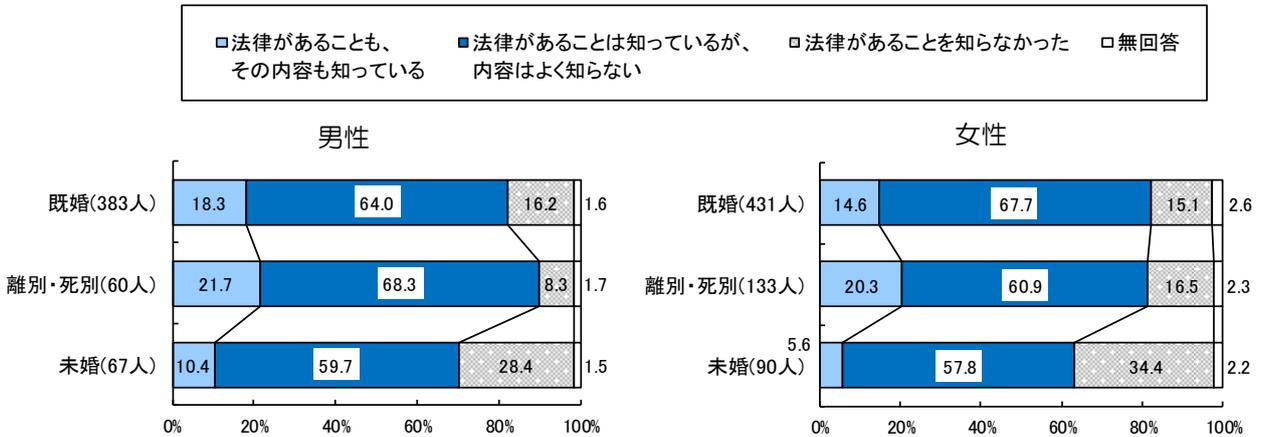
図 1-2 配偶者暴力防止法の認知度(性・年齢別)



(図 1-3)

性・未既婚別にみると、未婚者では「法律があることを知らなかった」という人が、男性 28.4%、女性 34.4%となっており、既婚者や離別・死別者よりも高くなっている。

図 1-3 配偶者暴力防止法の認知度(性・未既婚別)



2 相談窓口の周知度

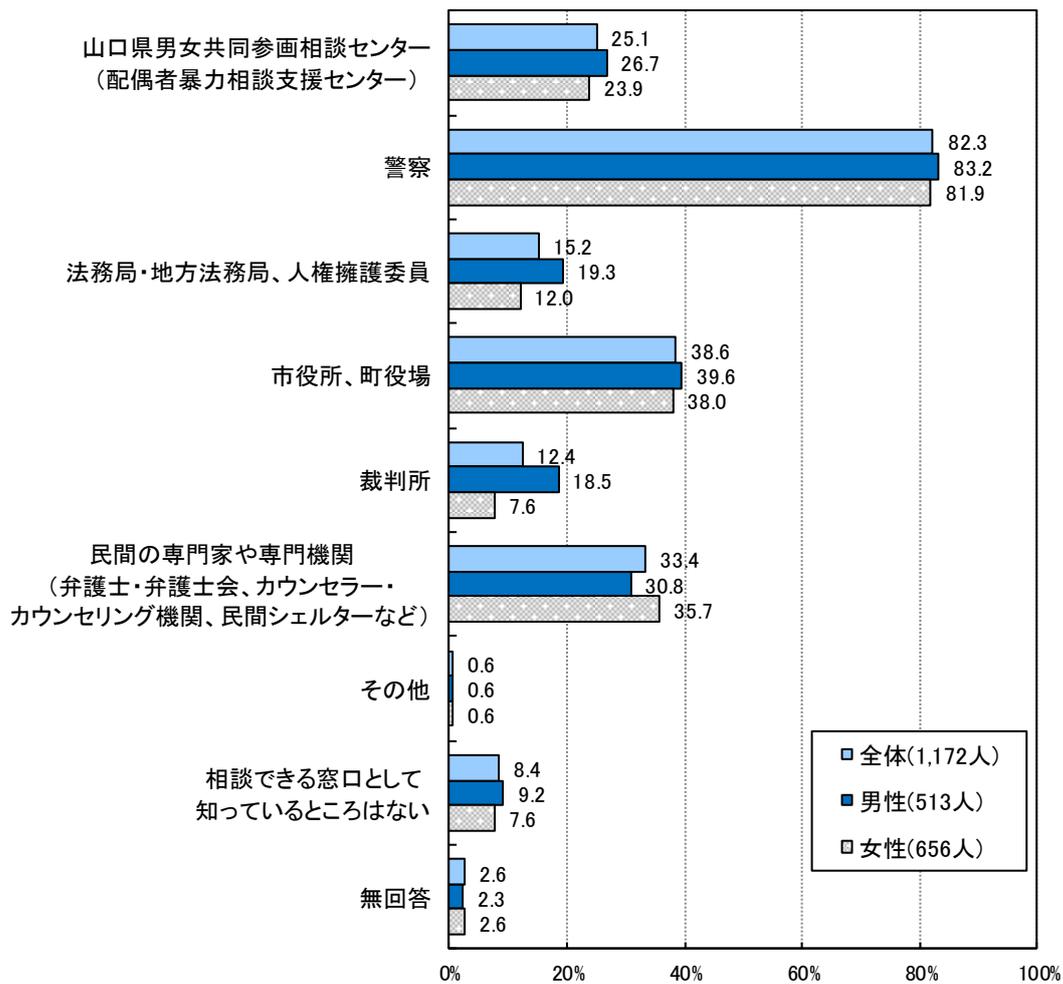
問2 あなたは、配偶者からの暴力について、相談できる窓口を知っていますか。次の中から、知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図 2-1)

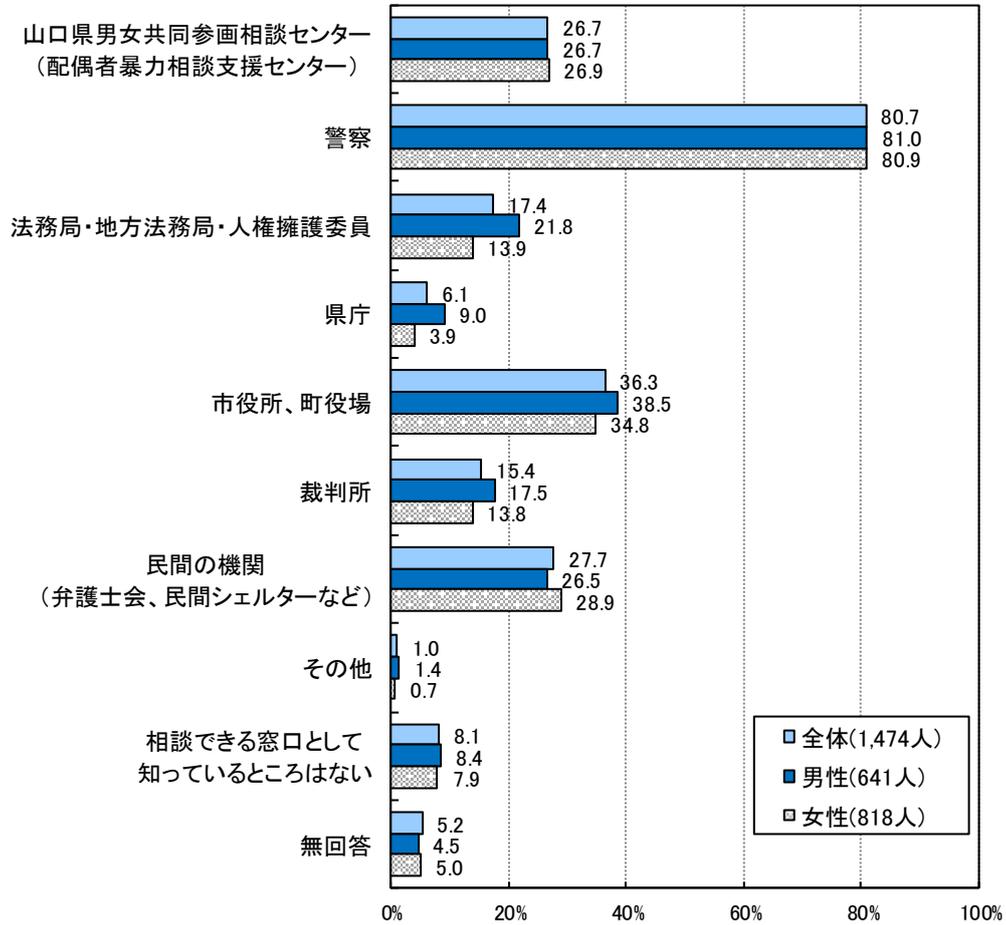
配偶者からの暴力についての相談窓口として知っているものを聞いたところ、「警察」が82.3%と最も高く、次いで「市役所、町役場」(38.6%)、「民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)」(33.4%)、「山口県男女共同参画相談センター(配偶者暴力相談支援センター)」(25.1%)の順となっている。

前回(H26)の調査結果と比較してみると、「山口県男女共同参画相談センター(配偶者暴力相談支援センター)」の周知度は26.7%から25.1%と1.6ポイント低下している。

図 2-1 相談窓口の周知度



前回調査（H26）



(図 2-2)

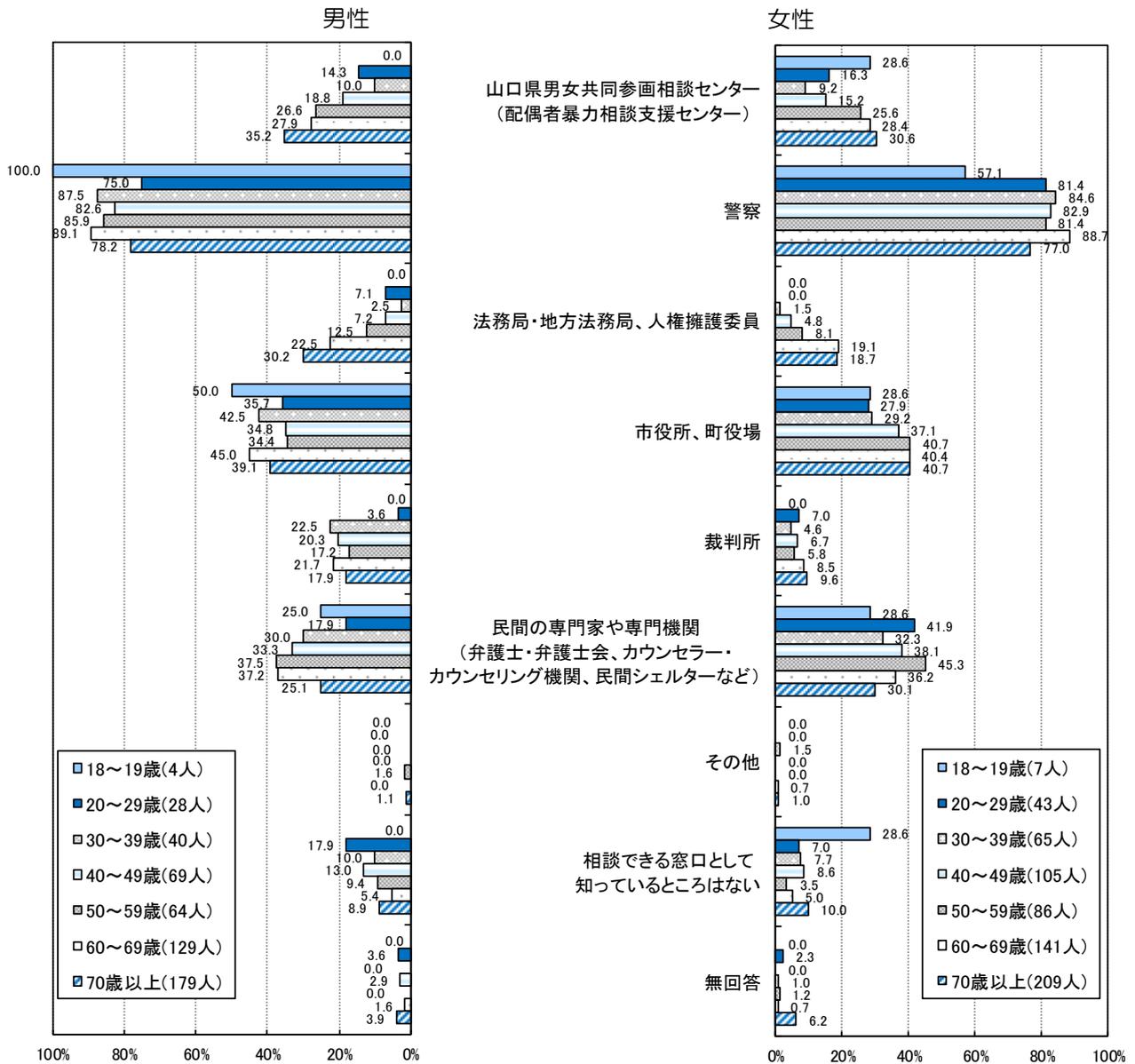
性・年齢別にみると、「警察」は、男女ともすべての年代で最も高くなっている。

「山口県男女共同参画相談センター(配偶者暴力相談支援センター)」は、男女とも 30 歳代の周知度が他の年代と比べて低くなっている。

「法務局・地方法務局、人権擁護委員」は、女性より男性で、また、若年層より高年齢者で、それぞれ高くなっている。

「相談できる窓口として知っているところはない」という人は、女性の 18～19 歳で 28.6%と、他の年代より高くなっている。

図 2-2 相談窓口の周知度(性・年齢別)



3 配偶者からの暴力と認識される行為

問3 あなたは、配偶者の中で次のようなことが行われた場合、それを暴力だと思いますか。AからLのそれぞれについて、1から3のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。
(○はそれぞれひとつずつ)

(図 3-1)

12項目の行為を挙げて、それが配偶者の中で行われた場合に暴力にあたると思うか聞いたところ、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が高いのは、“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”(93.6%)、“刃物などを突きつけて、おどす”(92.2%)で、9割以上の人

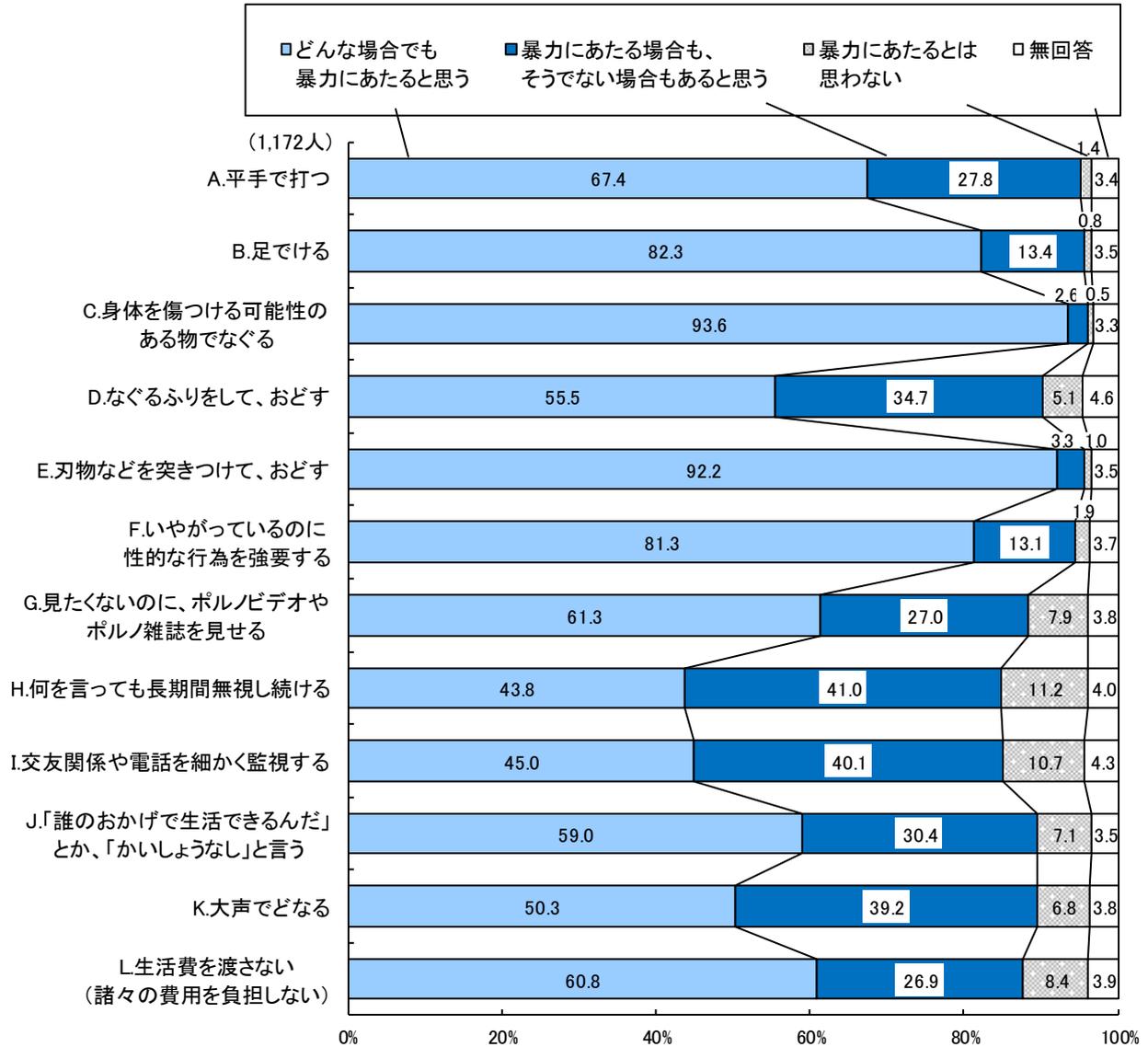
がそれぞれ暴力にあたることを認識している。

“足でける”(82.3%)、“いやがっているのに性的な行為を強要する”(81.3%)は、8割以上の人

がそれぞれ暴力にあたることを認識している。

これに対し、“何を言っても長期間無視し続ける”(11.2%)、“交友関係や電話を細かく監視する”(10.7%)、“生活費を渡さない(諸々の費用を負担しない)”(8.4%)といった、精神的・経済的な行為については、「暴力にあたるとは思わない」という人が高くなっている。

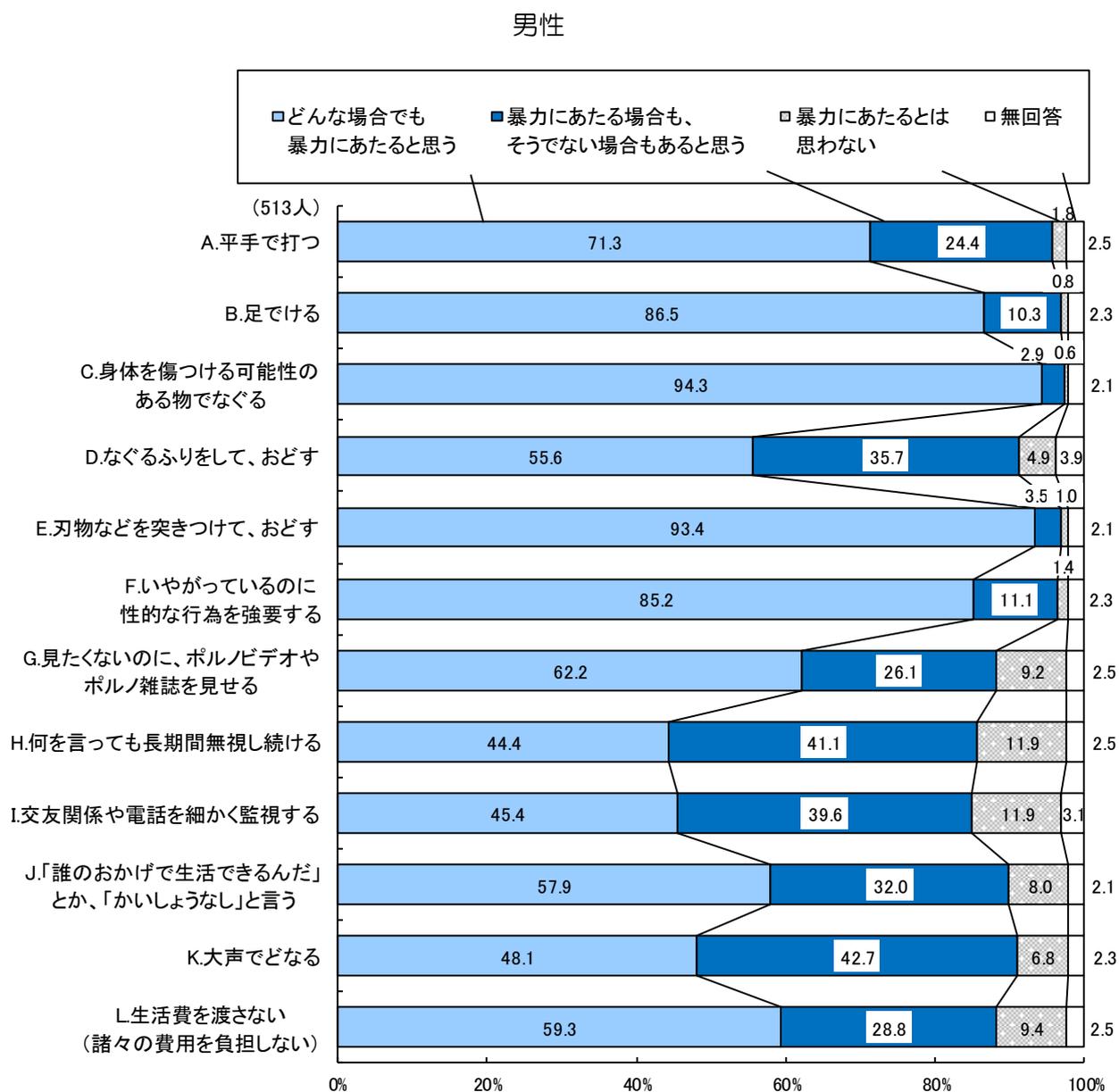
図 3-1 配偶者からの暴力と認識される行為



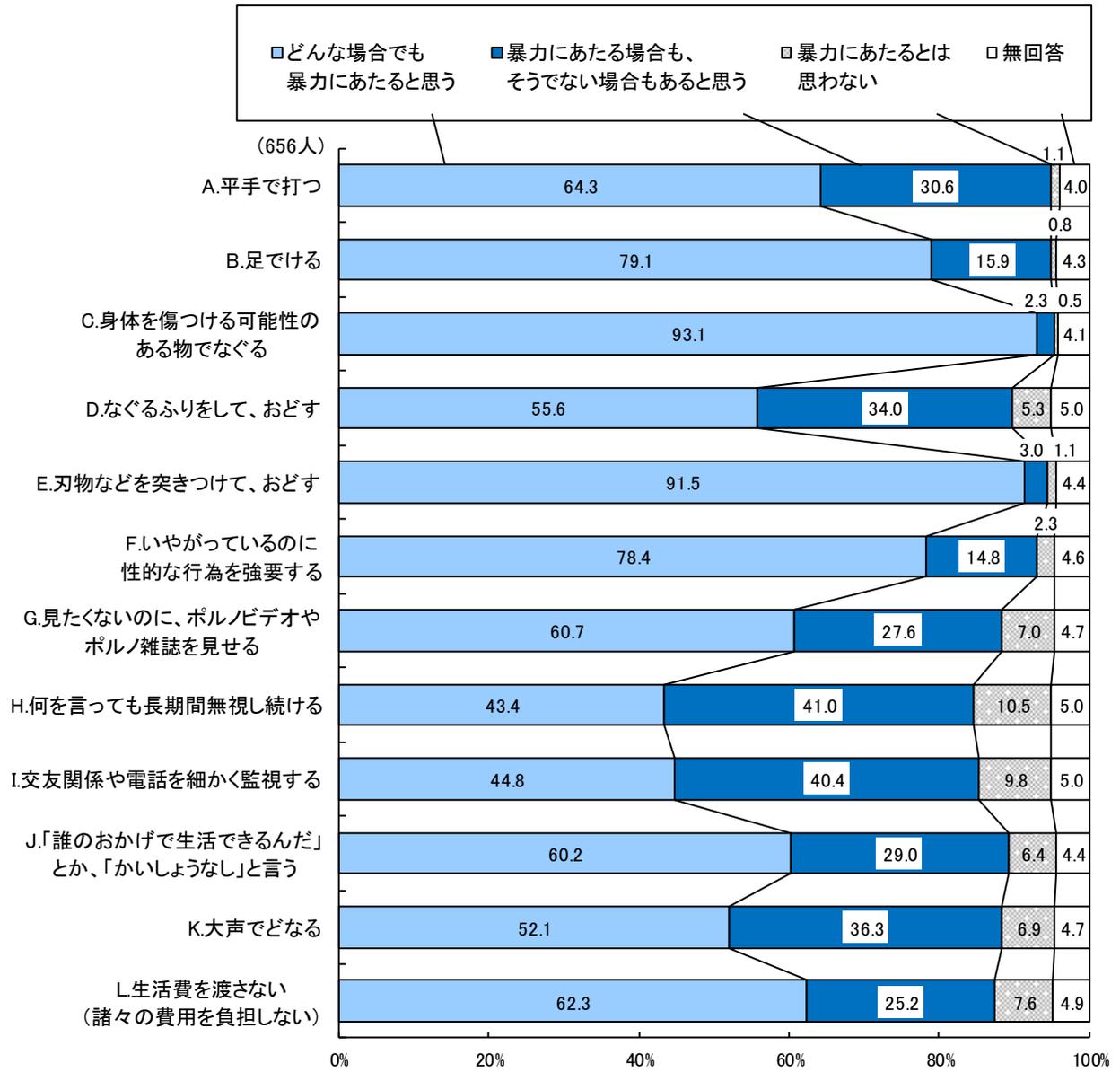
(図 3-2)

性別にみると、“平手で打つ”、“足でける”、“いやがっているのに性的な行為を強要する”では男性で、“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”、“大声でどなる”、“生活費を渡さない(諸々の費用を負担しない)”では女性で、それぞれ「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が高くなっている。

図 3-2 配偶者からの暴力と認識される行為(性別)



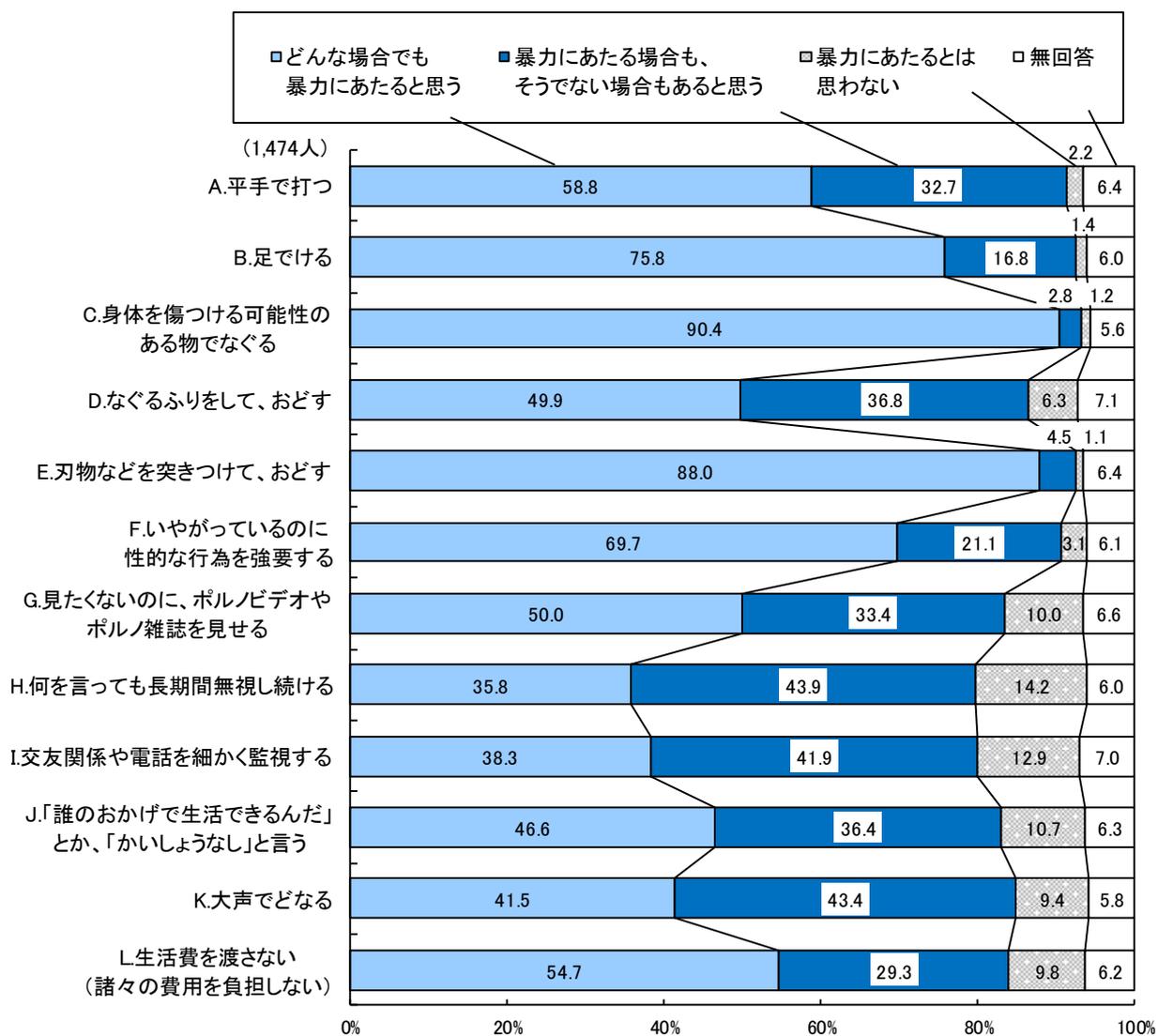
女性



(図 3-3)

前回(H26)の調査結果と比較してみると、すべての行為で「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が高くなっており、“いやがっているのに性的な行為を強要する”(69.7%→81.3%)、“見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”(50.0%→61.3%)、“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”(46.6%→59.0%)、“大声でどなる”(41.5%→50.3%)といった身体的暴力でない行為についても高くなっている。

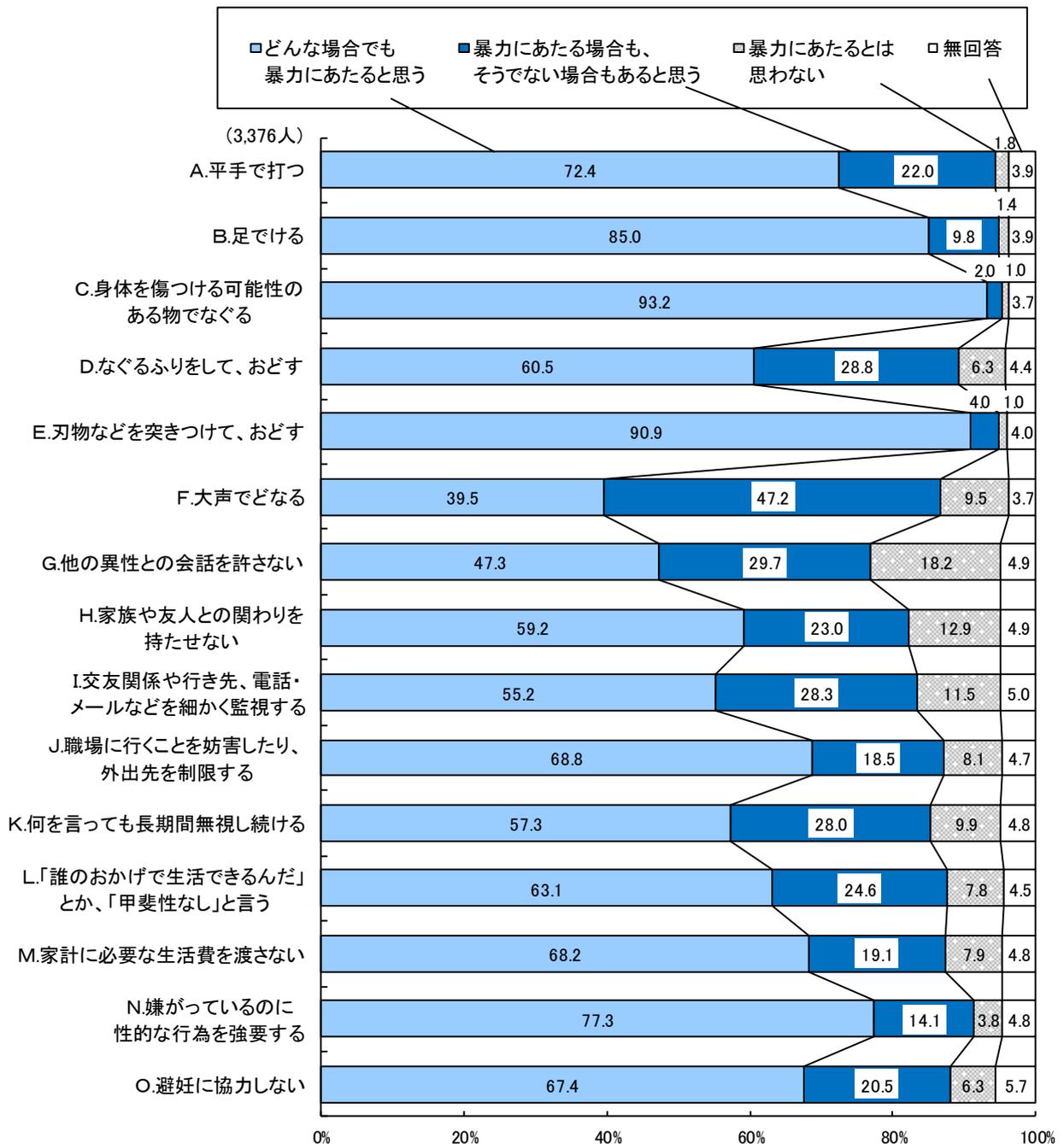
図 3-3 配偶者からの暴力と認識される行為 前回調査(H26)



(図 3-4)

全国(H29)の調査結果と共通する 11 項目を比較してみると、多くの行為について、県の調査結果の方が暴力の認識が低い。全国と県の調査結果のうち、差の大きい項目は、“何を言っても長期間無視し続ける”(全国 57.3%→県 43.8%)は 13.5 ポイント、“大声でどなる”(全国 39.5%→県 50.3%)は 10.8 ポイント、“交友関係や電話を細かく監視する”(全国 55.2%→県 45.0%)は 10.2 ポイントとなっている。

図 3-4 配偶者からの暴力と認識される行為 内閣府調査(H29)



4 配偶者からの暴力の被害経験

【これまでに結婚したことのある方にお聞きします。（1 ページ F 3 で、「1 既婚（事実婚や別居中を含む）」、「2 離別または死別」と答えた方にお聞きします。「3 未婚」と答えた方は問 12 にお進みください。）】

問 4 あなたはこれまでに、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。A から C のそれぞれについて 1、2、3 のあてはまる番号に○をつけてください。

(○はそれぞれひとつずつ)

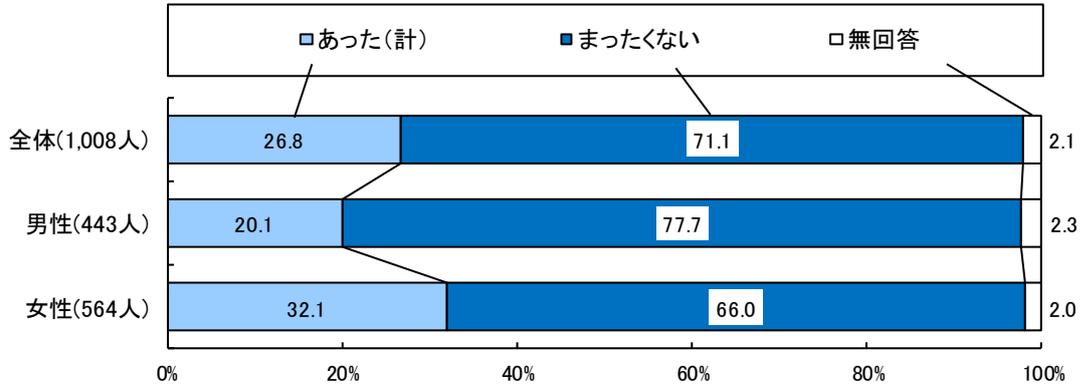
(図 4-1)

これまでに結婚したことのある人(1,008 人)に、“身体的暴行” “心理的攻撃” “性的強要” の 3 つの行為を挙げて、配偶者からそれらの行為について受けたことがあるか聞いたところ、いずれかの行為を受けたことが『あった』という人は 26.8%（「1、2 度あった」18.0%＋「何度もあった」8.8%）となっており、約 4 人に 1 人が配偶者からの暴力の被害経験がある。

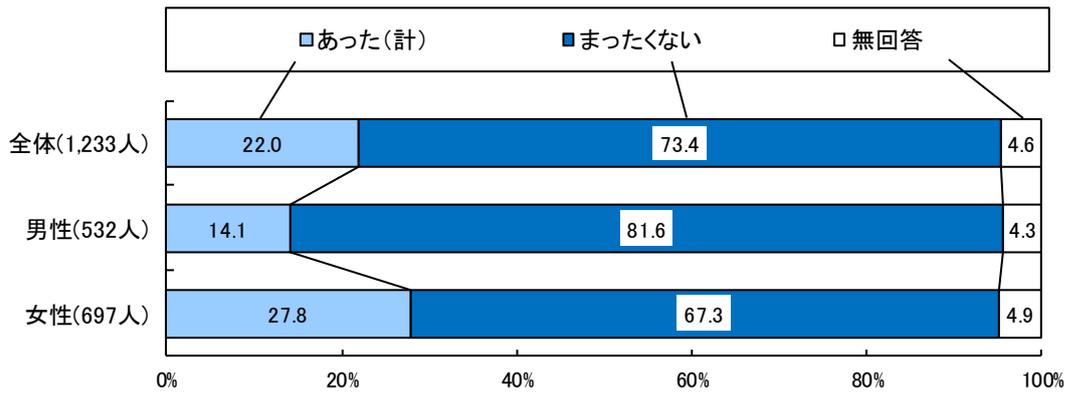
前回(H26)の調査結果と比較してみると、いずれかの行為を受けたことが『あった』という人は 22.0%から 26.8%と 4.8 ポイント高くなっている。性別にみると、男女とも前回調査結果より高くなっている(男性 14.1%→20.1%、女性 27.8%→32.1%)。

全国(H29)の調査結果と比較してみると、男女とも、県の調査結果の方が、被害を受けたことがある人の割合が高くなっている(男性：全国 19.9%→県 20.1%、女性：全国 31.3%→県 32.1%)。

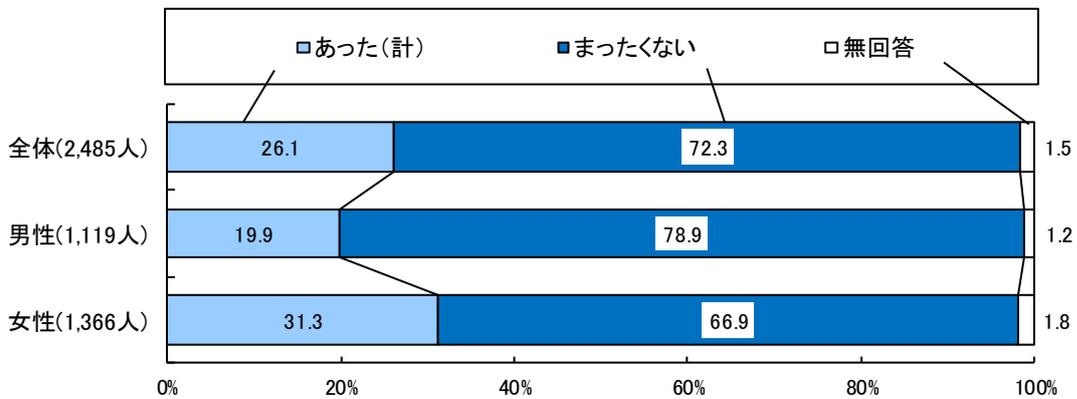
図 4-1 配偶者からの暴力の被害経験の有無



前回調査(H26)



内閣府調査(H29)



(図 4-2)

それぞれの行為について、被害経験が『あった』割合をみると、“身体的暴行^{※1}”が17.9%、“心理的攻撃^{※2}”が16.4%、“性的強要^{※3}”が10.1%となっている。

前回(H26)の調査結果と比較してみると、性的強要(11.7%→10.1%)の被害経験が低くなっているのに対し、身体的暴行(15.5%→17.9%)、心理的攻撃(11.8%→16.4%)の被害経験は高くなっている。

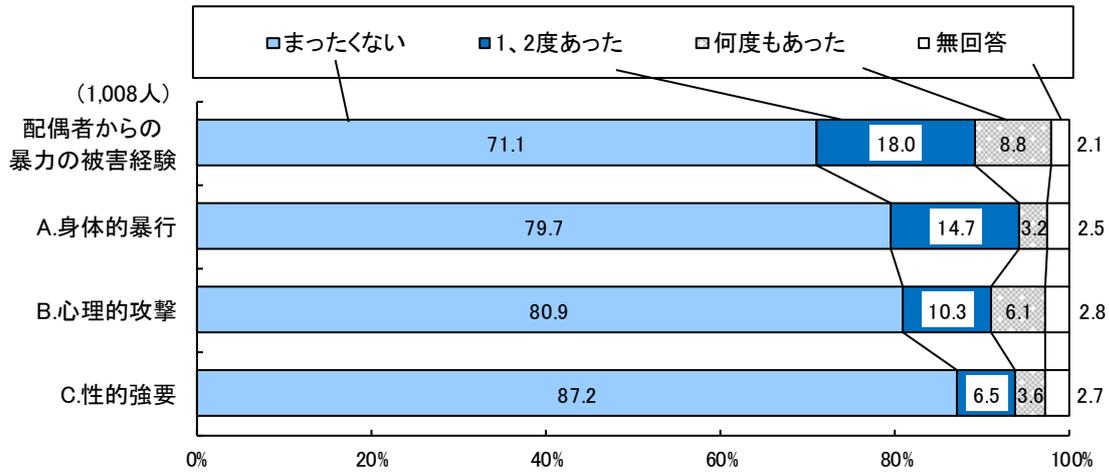
全国(H29)の調査結果と共通する3項目を比較してみると、身体的暴行(全国17.4%→県17.9%)、心理的攻撃(全国13.7%→県16.4%)、性的強要(全国6.1%→県10.1%)のすべてにおいて、県の調査結果の方が、被害を受けたことがある人の割合が高い。

※1 身体的暴行…例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行

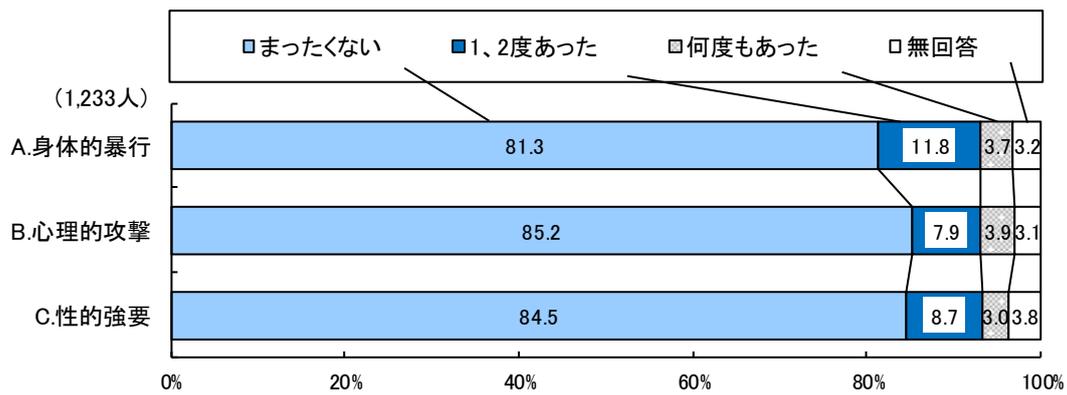
※2 心理的攻撃…例えば、人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫

※3 性的強要……例えば、いやがっているのに性的な行為を強要されるなど

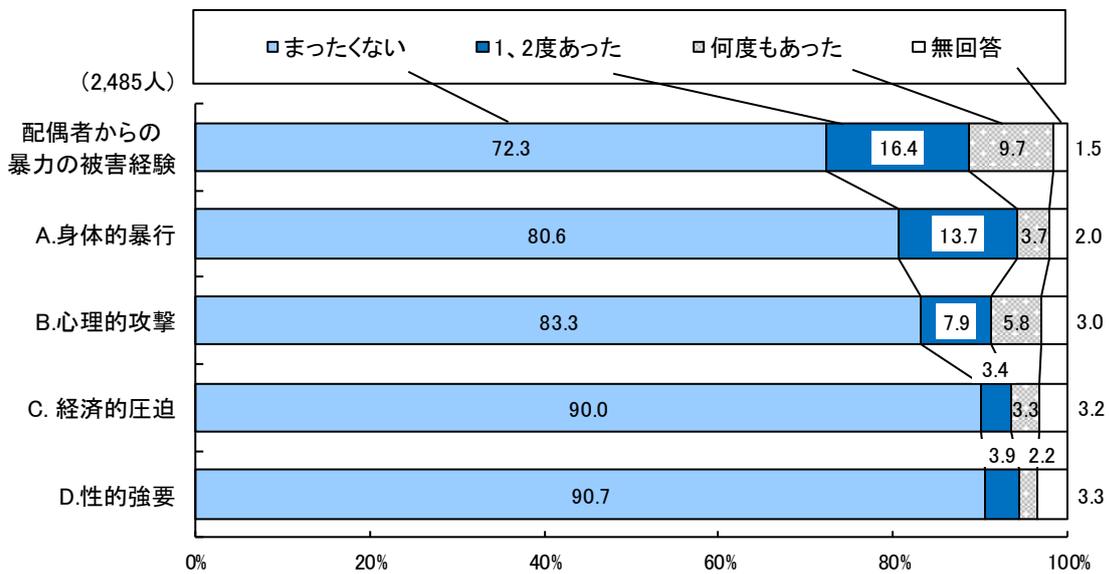
図 4-2 配偶者からの暴力の被害経験



前回調査(H26)



内閣府調査(H29)



(図 4-3)

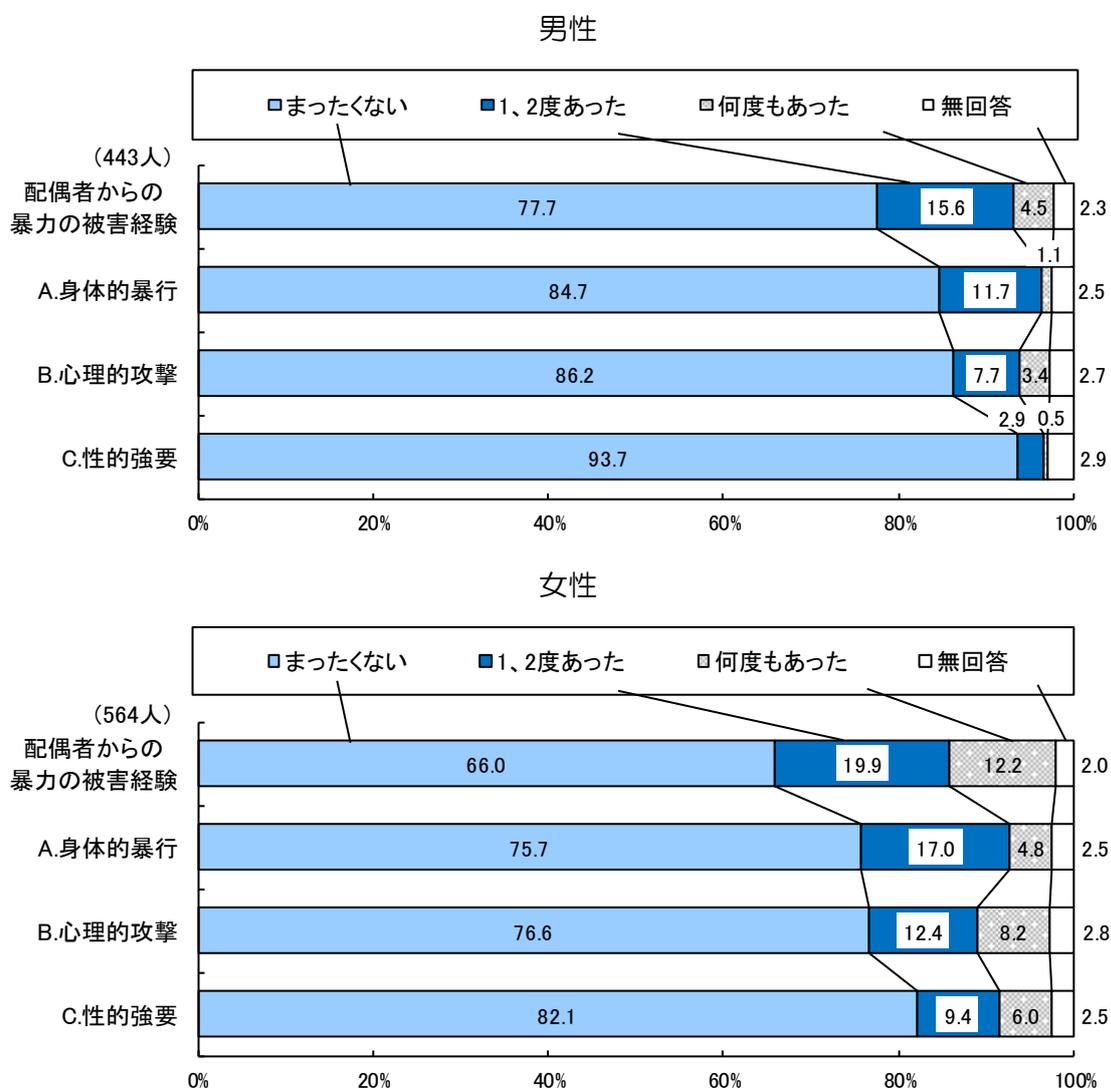
配偶者からの暴力の被害経験を性別にみると、被害経験が『あった』という人は男性が 20.1%、女性が 32.1%となっており、女性の約 3 人に 1 人は被害経験がある。

それぞれの行為をみると、“身体的暴行”を受けたことが『あった』という人は女性で 21.8%となっており、男性の 12.8%を 9.0 ポイント上回っている。

“心理的攻撃”を受けたことが『あった』という人は女性で 20.6%となっており、男性の 11.1%を 9.5 ポイント上回っている。

“性的強要”を受けたことが『あった』という人は女性で 15.4%となっており、男性の 3.4%を 12.0 ポイント上回っている。

図 4-3 配偶者からの暴力の被害経験(性別)



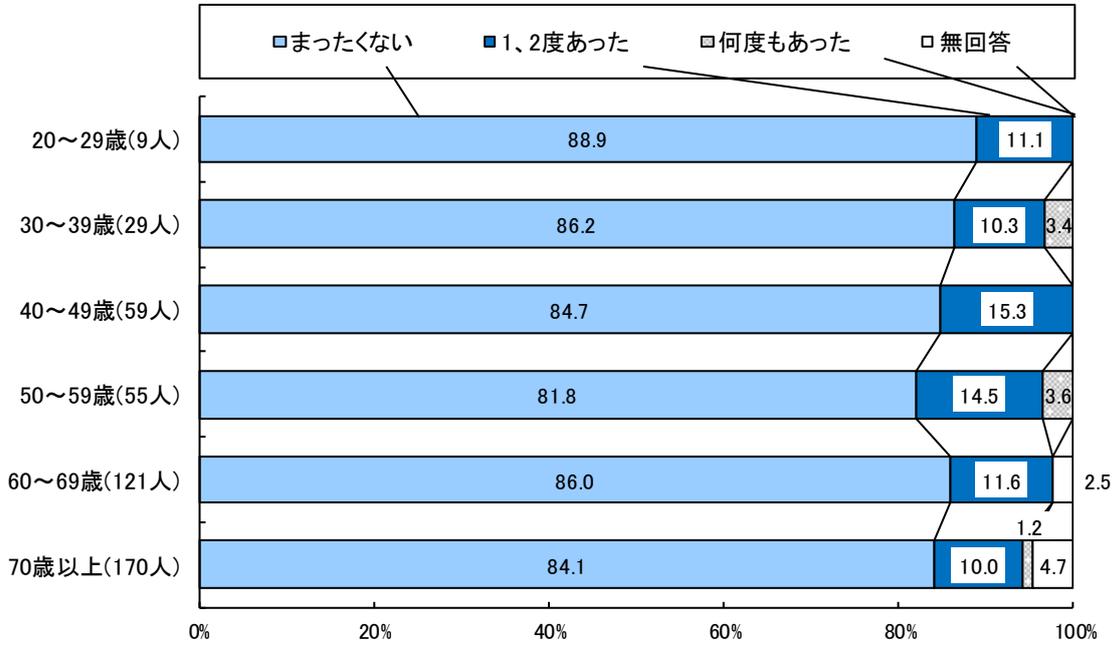
(図 4-4)

配偶者からの暴力の被害経験を性・年齢別にみると、“身体的暴行”が『あった』という人は、女性の50歳代を除くすべての年代で2割以上となっており、女性の20歳代では33.4%と高い。男性では50歳代で高くなっている。

“心理的攻撃”が『あった』という人は、すべての年代で男性よりも女性が高くなっており、特に女性の40歳代は30.2%となっている。

“性的強要”が『あった』という人は、男性は30歳代で10.3%と他の年代よりも高く、女性は30歳代を除くすべての年代で1割を超え、特に女性の60歳代は20.9%となっている。

図 4-4 配偶者からの暴力の被害経験(性・年齢別)
身体的暴行(男性)



身体的暴行(女性)

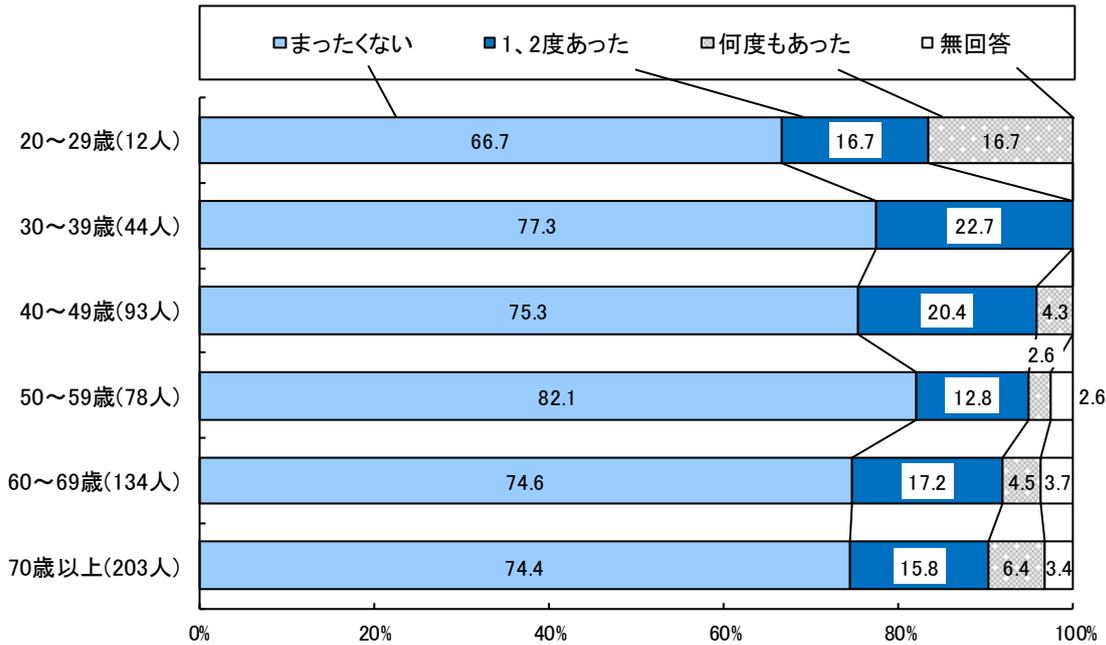
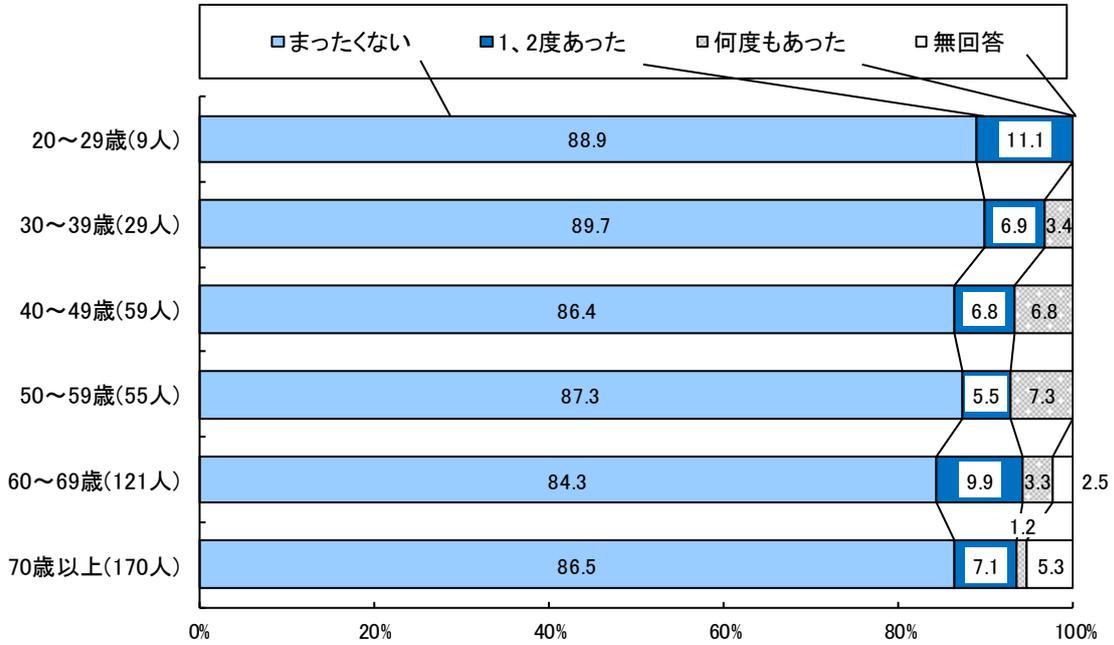


図 4-4 配偶者からの暴力の被害経験(性・年齢別)【続き】

心理的攻撃 (男性)



心理的攻撃 (女性)

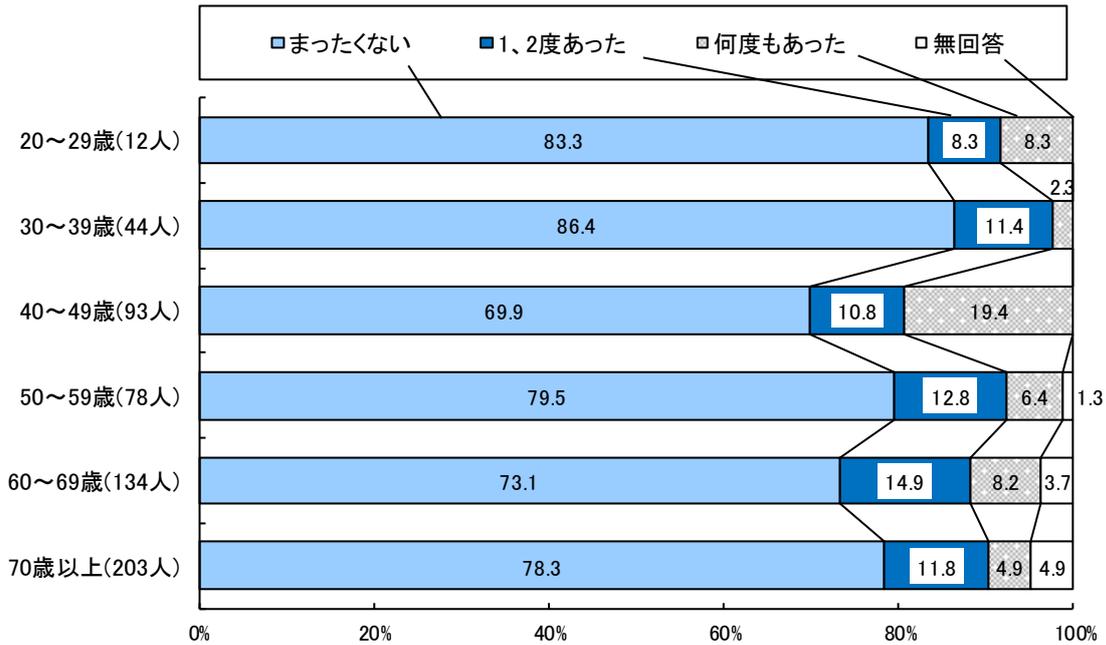
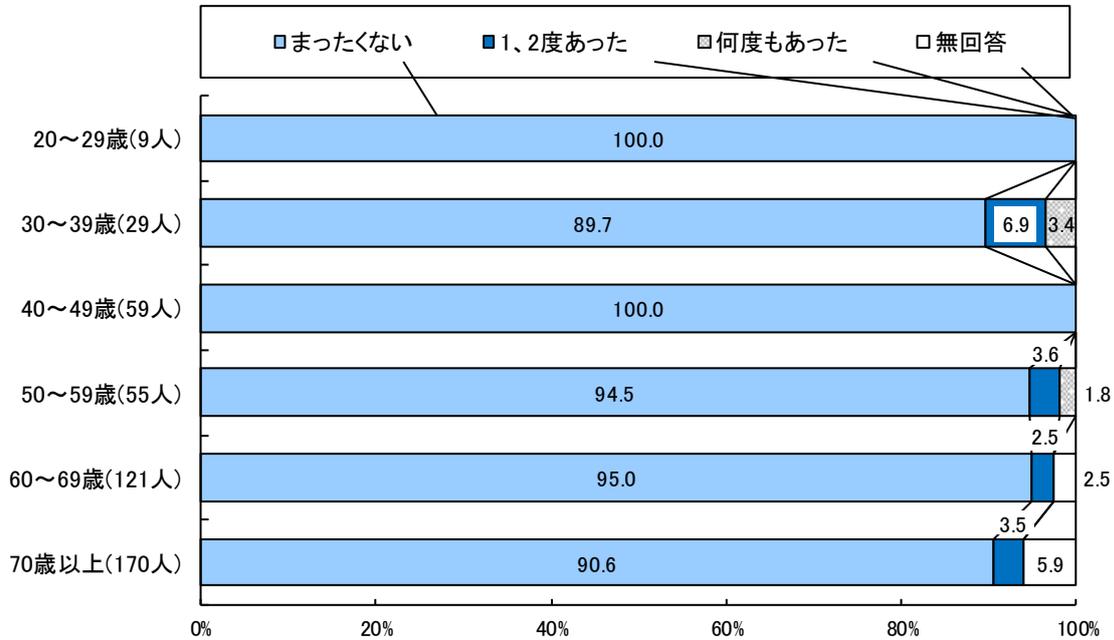
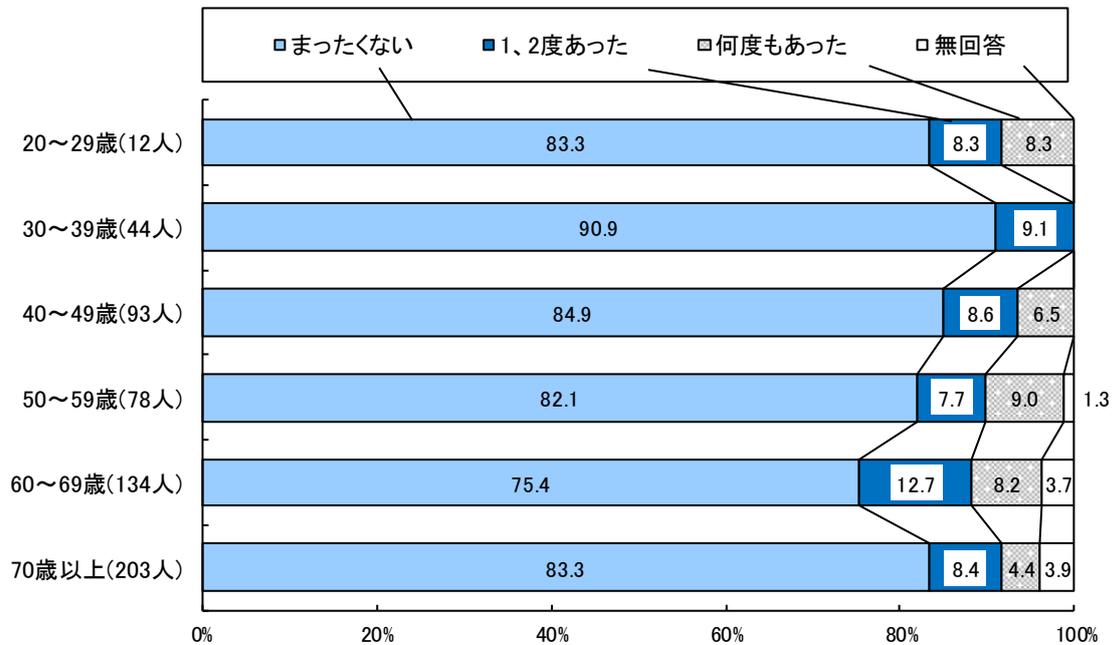


図 4-4 配偶者からの暴力の被害経験(性・年齢別)【続き】

性的強要 (男性)



性的強要 (女性)



【問4でA、B、Cのうちひとつでも、これまでに「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた方にお聞きします。AからCのすべてが「まったくない」という方は問11にお進みください。】

問5 配偶者から、問4に該当することをされた時期について、お答えください。

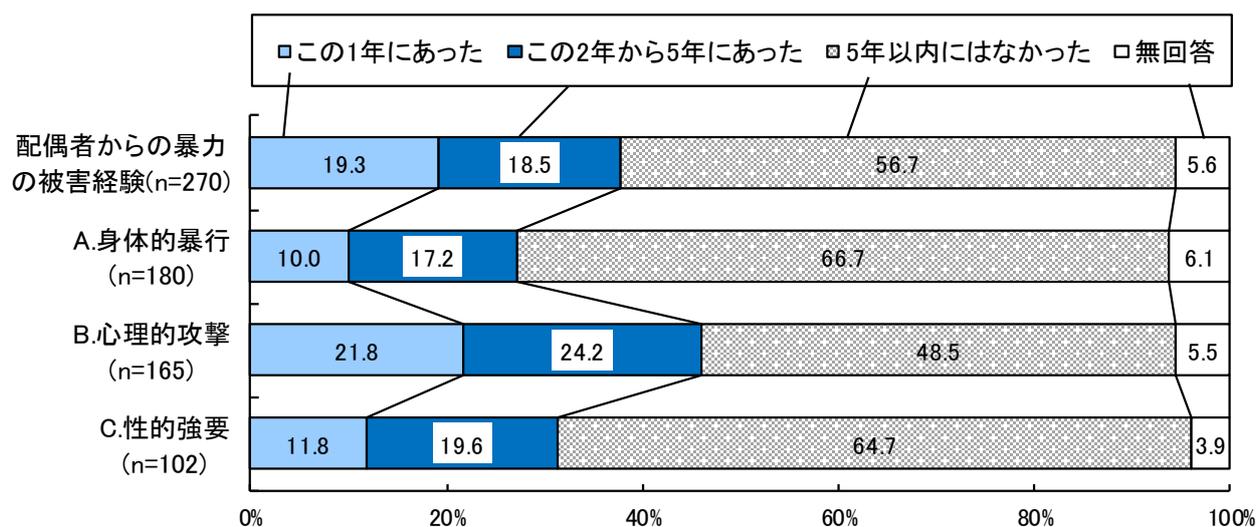
(○はいくつでも)

(図 4-5)

配偶者からこれまでに“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかについて被害を受けたことがあると回答した人(270人)に、その被害の時期を聞いたところ、この5年以内に『あった』という人は37.8%(「この1年にあった」19.3%+「この2年から5年にあった」18.5%)となっている。

また、いずれの被害についても、「5年以内にはなかった」が最も高くなっている。

図 4-5 配偶者からの暴力の被害にあった時期



5 配偶者からの暴力の被害に対する相談

【問5でA、B、Cのうち1つでも、「この1年にあった」、「この2年から5年にあった」と答えた方にお聞きします。AからCのすべてが「5年以内にはなかった」という方は問8にお進みください。】

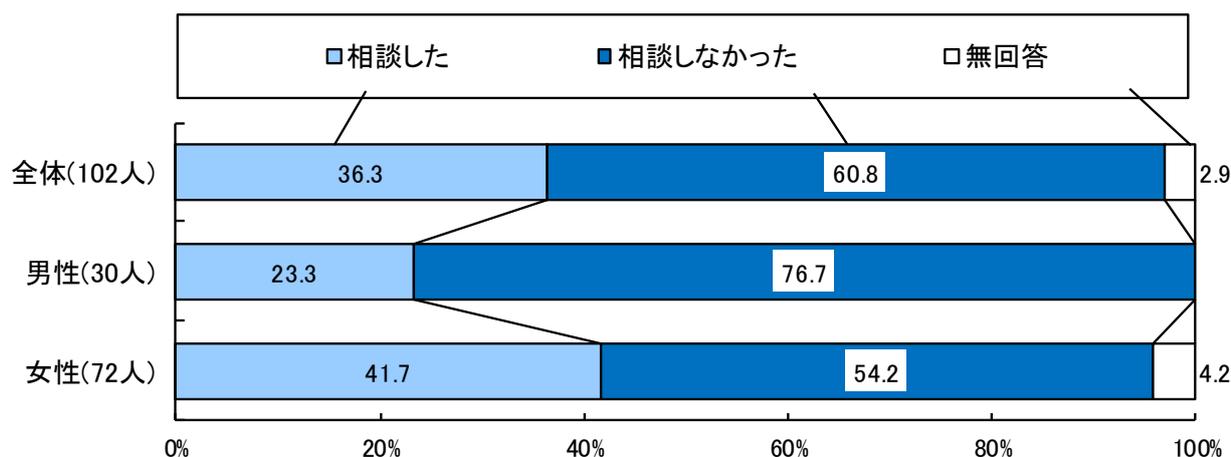
問6 あなたはこの5年の間に、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)

(図 5-1)

この5年の間に、配偶者からの暴力の被害を受けたことがある人(102人)に、その被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』としてまとめた。『相談した』は36.3%で、男性が23.3%、女性が41.7%となっている。

図 5-1 配偶者からの暴力の被害の相談の有無



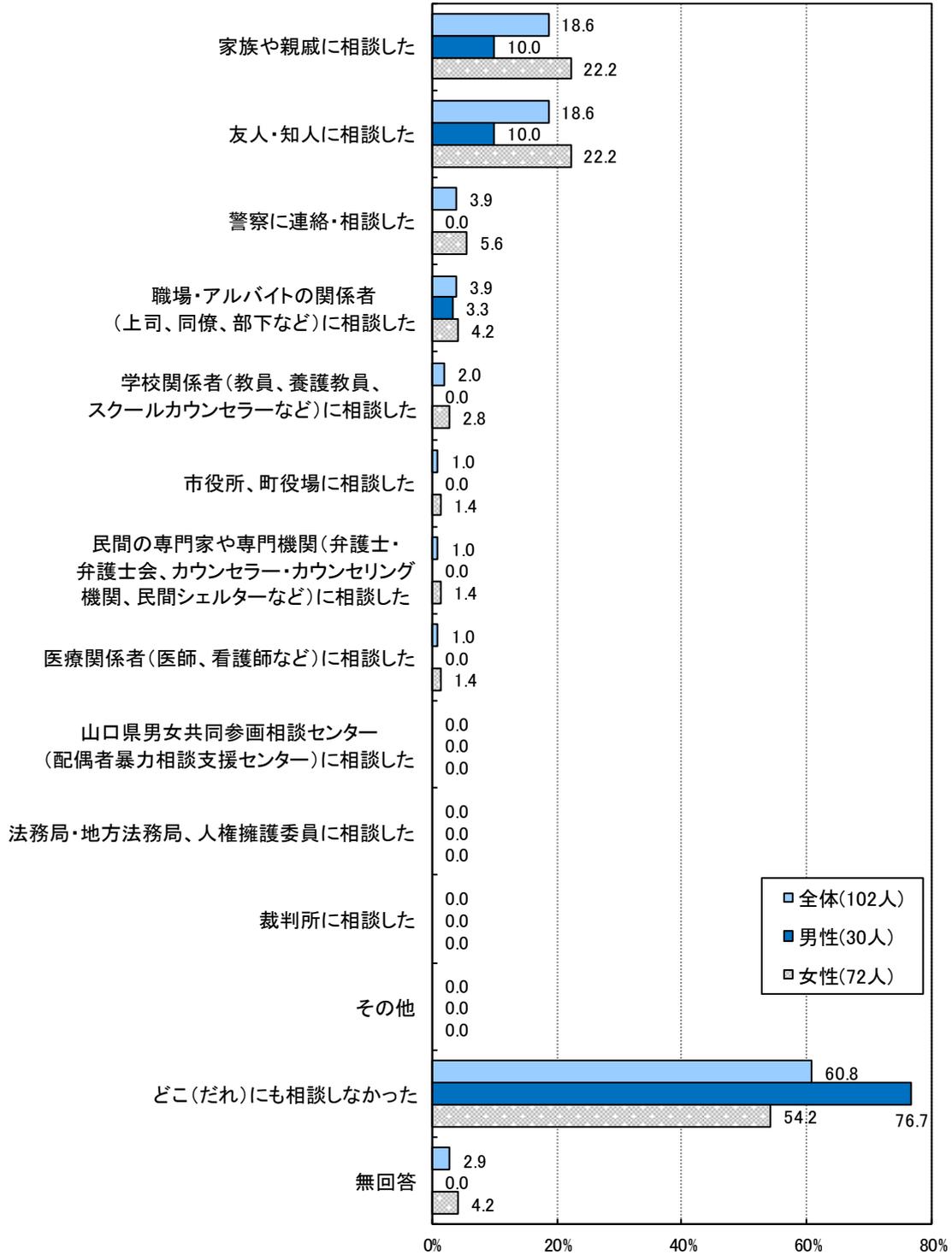
(図 5-2)

相談先をみると、「家族や親戚に相談した」(18.6%)、「友人・知人に相談した」(18.6%)が他の相談先より高くなっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(60.8%)は6割を超えている。

性別にみると、「家族や親戚に相談した」、「友人・知人に相談した」(男性10.0%、女性22.2%)がともに、女性が男性を12.2ポイント上回っている。

これに対し、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(同76.7%、54.2%)は、男性が女性を22.5ポイント上回っている。

図 5-2 配偶者からの暴力の被害の相談先



【問6で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問7 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

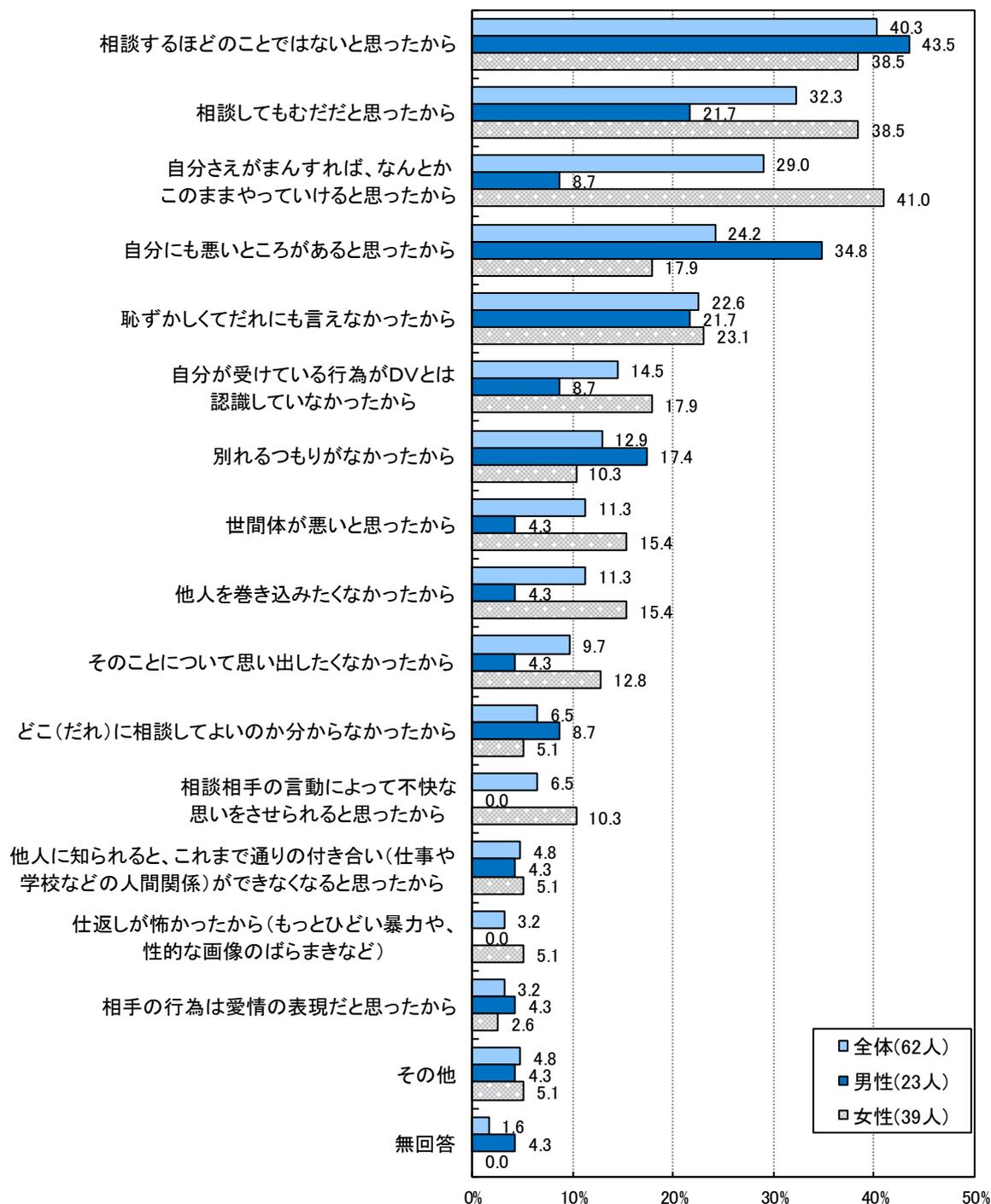
(図 5-3)

配偶者からの暴力の被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した人(62人)に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」(40.3%)が最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」(32.3%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(29.0%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(24.2%)の順となっている。

性別にみると、「相談してもむだだと思ったから」(男性 21.7%、女性 38.5%)は 16.8 ポイント、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(同 8.7%、41.0%)は 32.3 ポイント、女性が男性を上回っている。

これに対し、「自分にも悪いところがあると思ったから」(同 34.8%、17.9%)は、男性が女性を 16.9 ポイント上回っている。

図 5-3 配偶者からの暴力の被害について相談しなかった理由



6 配偶者からの暴力の被害を受けたときの行動

問8、問9については、複数の配偶者から暴力を受けた方は、あなたがより深く傷ついた経験の1つについてお答えください。

【配偶者から、問4のAからCの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】

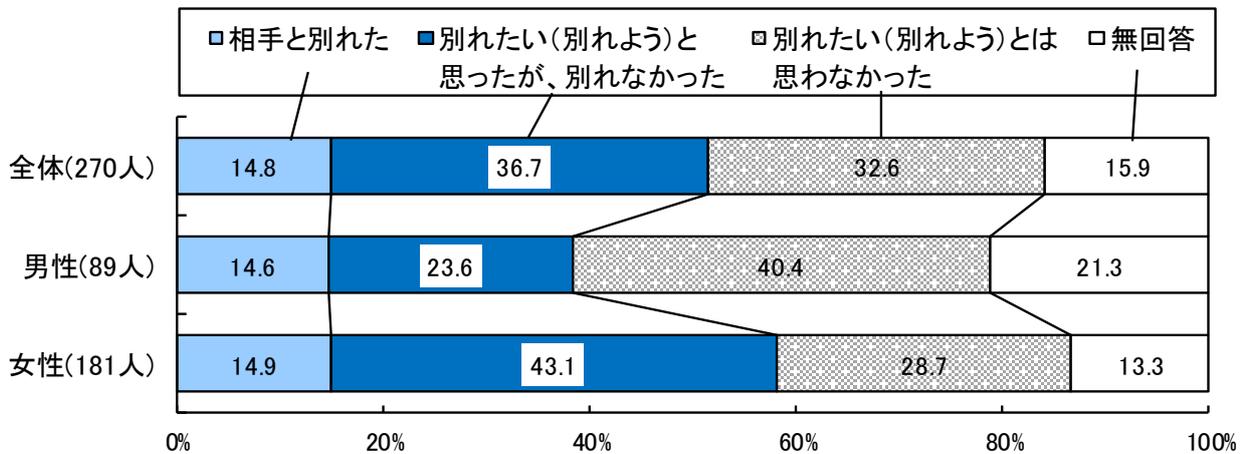
問8 あなたは、配偶者からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はひとつだけ)

(図6-1)

これまでに配偶者からの暴力の被害を受けたことがある人(270人)に、その行為を受けたとき、どうしたか聞いたところ、「相手と別れた」が14.8%、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が36.7%、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が32.6%となっている。

性別にみると、男性は「別れたい(別れよう)とは思わなかった」(男性40.4%、女性28.7%)が最も高く、女性は「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」(同23.6%、43.1%)が最も高くなっている。

図6-1 配偶者からの暴力の被害を受けたときの行動



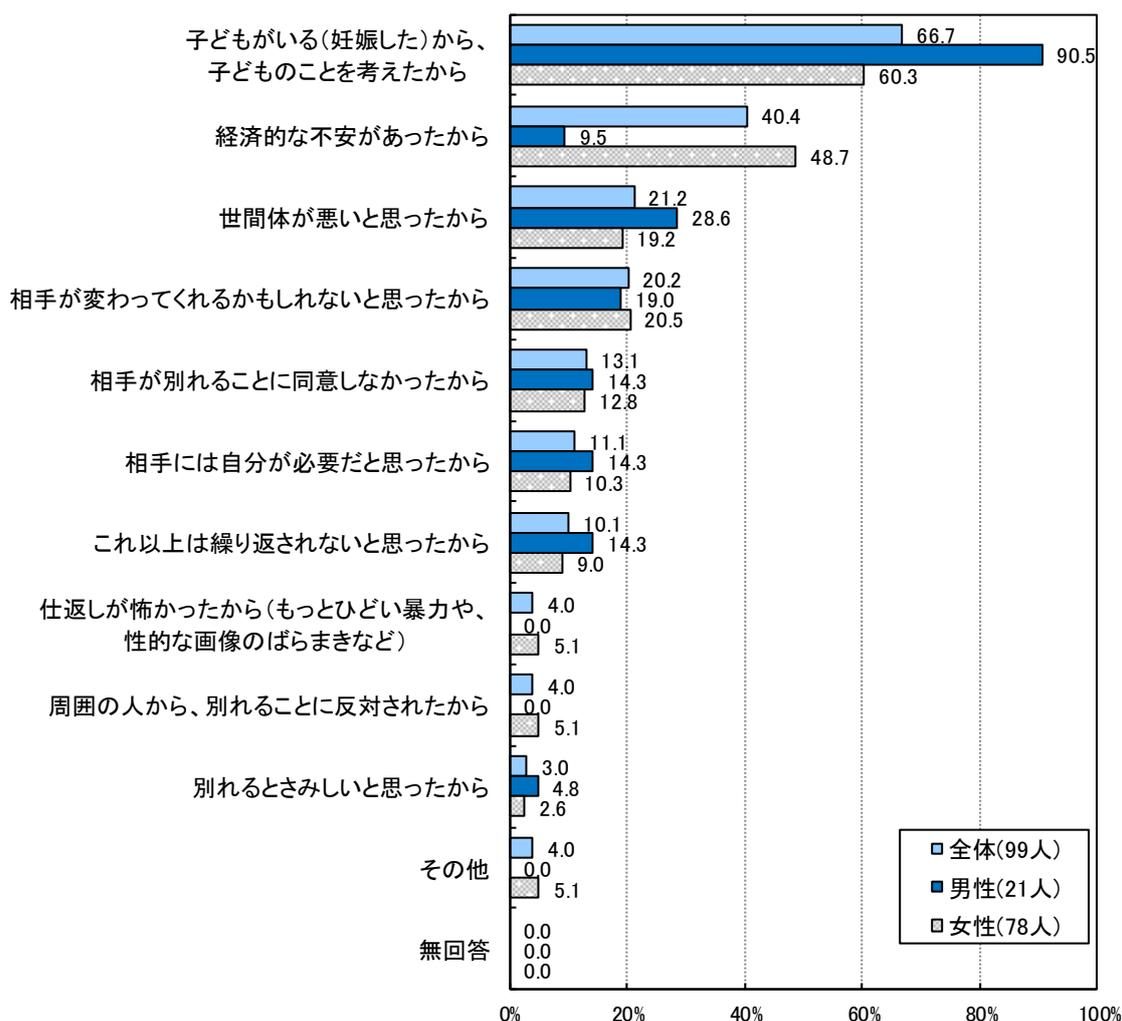
【問8で「2 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きします。】
 問9 あなたが、配偶者と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけて
 ください。(○はいくつでも)

(図6-2)

配偶者からの暴力の被害を受けたとき、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した人(99人)に、別れなかった理由を聞いたところ、「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」(66.7%)が最も高く、次いで「経済的な不安があったから」(40.4%)、「世間体が悪いと思ったから」(21.2%)、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」(20.2%)の順となっている。

性別にみると、男女とも、「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」(男性90.5%、女性60.3%)が最も高く、次いで男性は「世間体が悪いと思ったから」(28.6%)、女性は「経済的な不安があったから」(48.7%)が高くなっている。

図6-2 配偶者と別れなかった理由



7 配偶者からの暴力による命の危険を感じた経験

【配偶者から、問4のAからCの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】

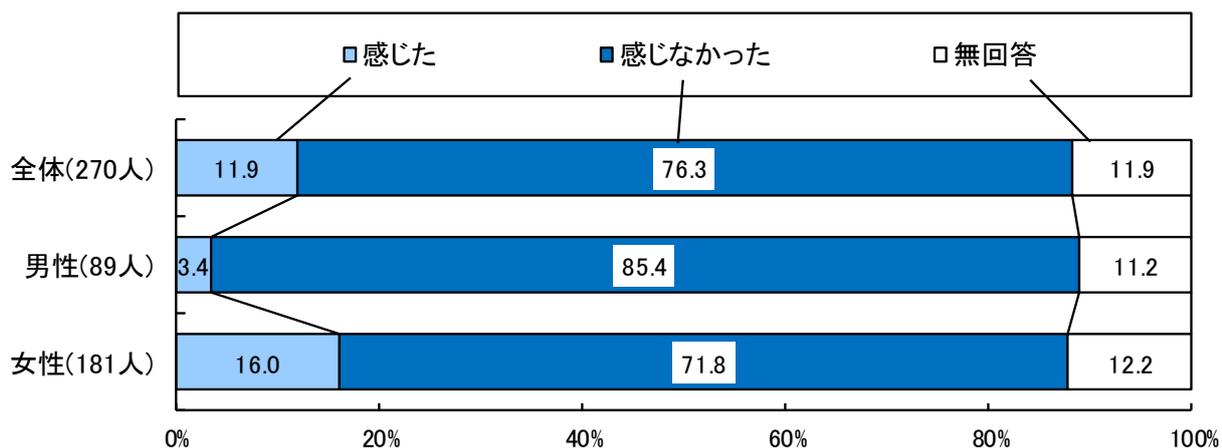
問10 あなたはこれまでに、配偶者から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はひとつだけ）

(図 7-1)

これまでに配偶者からの暴力の被害を受けたことがある人(270人)に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるか聞いたところ、「感じた」という人は11.9%、「感じなかった」という人は76.3%となっている。

性別にみると、命の危険を「感じた」(男性3.4%、女性16.0%)は、女性が男性を12.6ポイント上回っている。

図 7-1 配偶者からの暴力による命の危険を感じた経験



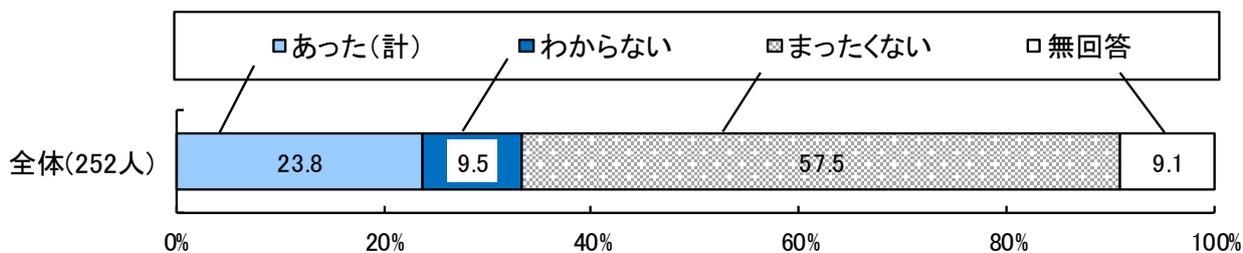
8 子どもの被害経験

【問11は、子どもがいる方にお聞きします。子どものいない方は問12にお進みください。】
問11 あなたの子どもは18歳になるまでの間に、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図8-1)

これまでに配偶者からの暴力の被害を受けたことがあり、子どもがいる人(252人)に、子どもが18歳になるまでの間に配偶者から被害を受けたことがあるかを聞き、何らかの被害経験が『あった』と回答した人は23.8%となっている。

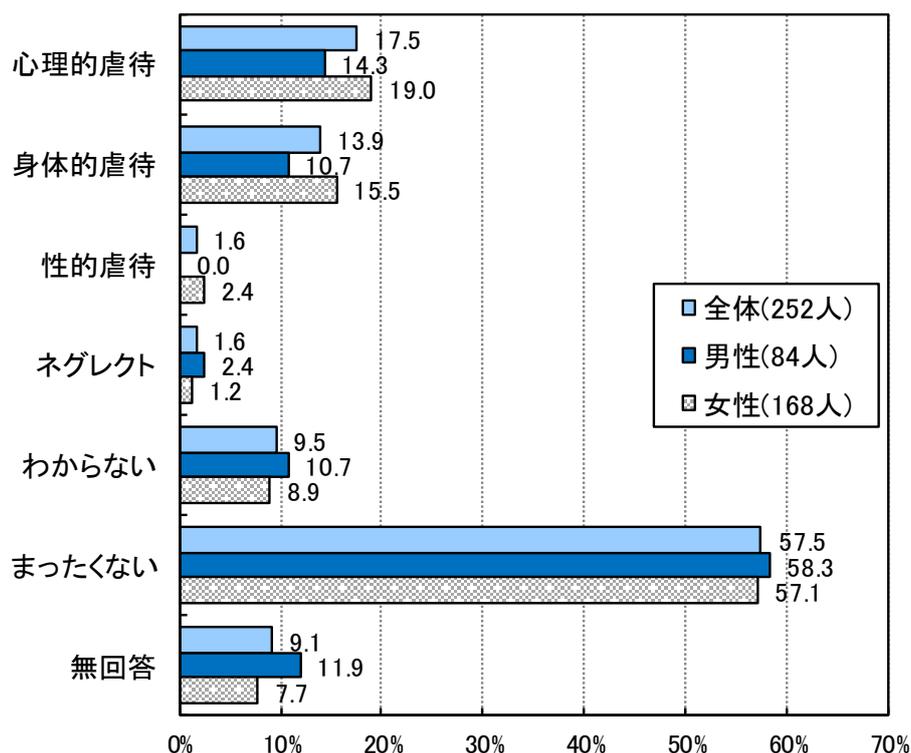
図8-1 子どもの被害経験の有無



(図 8-2)

子どもの被害経験の内容をみると、「心理的虐待」が17.5%と最も高く、次いで「身体的虐待」(13.9%)の順となっている。

図 8-2 子どもの被害経験



心理的虐待…例えば、子どもの心を傷つけることを繰り返し言う、無視する、他の兄弟姉妹と著しく差別的な扱いをする、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるうなど

身体的虐待…例えば、なぐる、ける、たばこの火を押しつける、激しく揺さぶる、長時間外に放置するなど

性的虐待……例えば、子どもへの性的行為、性的行為を見せる、児童ポルノの被写体にするなど

ネグレクト…例えば、病気やけがをしても適切な処置を施さない、乳幼児を家に置いたまま度々外出する、極端に不潔な環境で生活させる、保護者以外の同居人による虐待を保護者が放置するなど

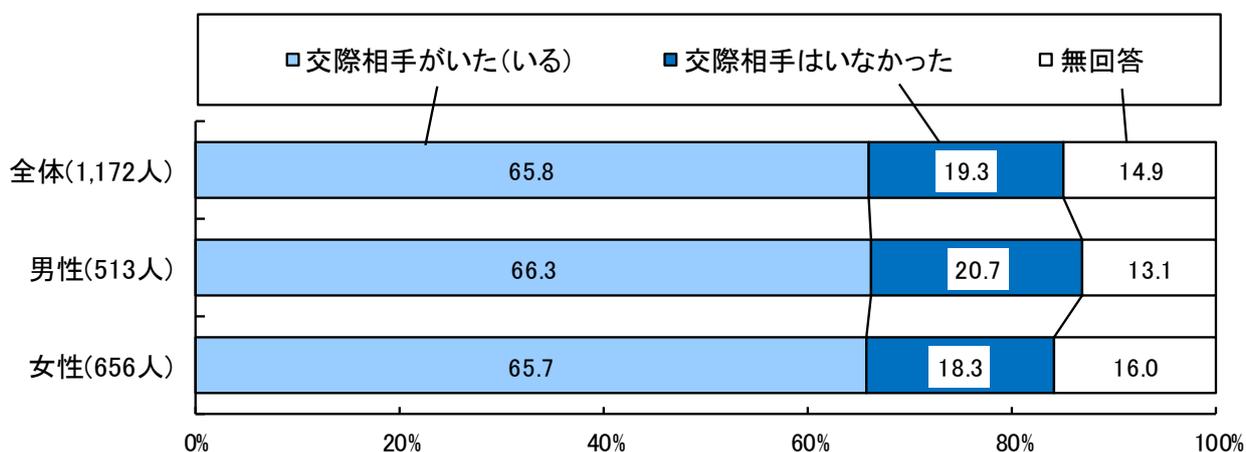
9 交際相手の有無

問12 あなたには、これまでに交際相手がありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。
現在、結婚している方については、結婚前についてお答えください。（○はひとつだけ）
なお、ここでいう「交際相手」には、婚姻届を出していない事実婚は含みません。
（以下、同様）

（図 9-1）

交際相手からの暴力の被害経験について調査をするに当たり、交際相手の有無を聞いたところ、「交際相手があった（いる）」が 65.8%となっている。

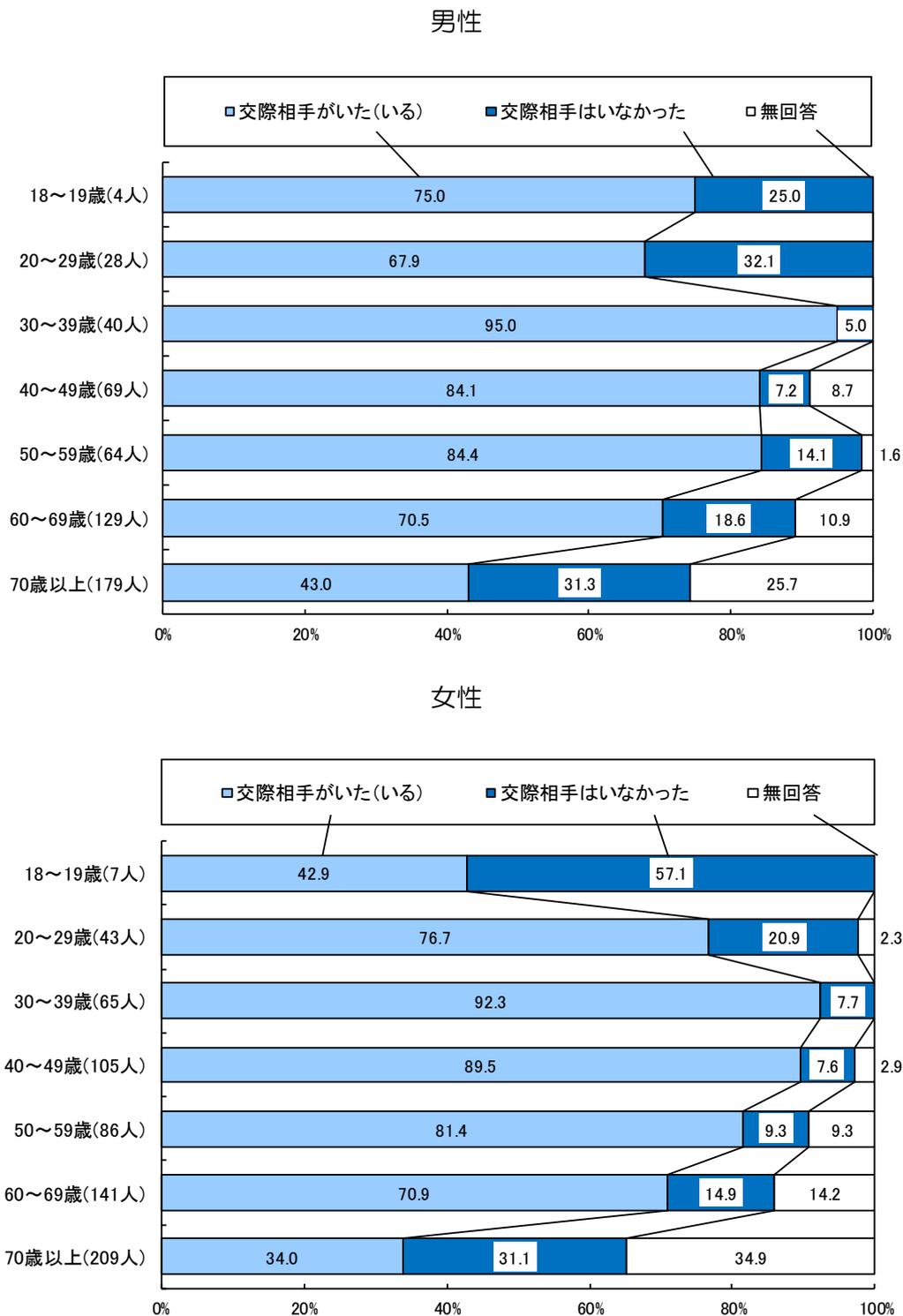
図 9-1 交際相手の有無



(図 9-2)

性・年齢別にみると、男女とも「交際相手がいた(いる)」が半数を超えているのは20歳代(男性67.9%、女性76.7%)、30歳代(同95.0%、92.3%)、40歳代(同84.1%、89.5%)、50歳代(同84.4%、81.4%)、60歳代(同70.5%、70.9%)となっている。

図 9-2 交際相手の有無(性・年齢別)



10 交際相手からの暴力の被害経験

【問12で「1 交際相手がいた(いる)」と答えた方にお聞きします。】

問13 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。AからCのそれぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図10-1)

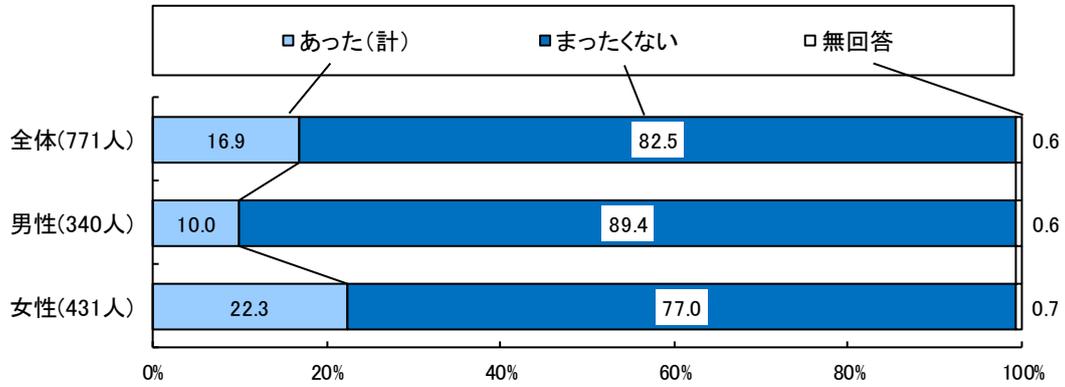
「交際相手がいた(いる)」という人(771人)に、“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”の3つの行為を挙げて、交際相手からそれらの行為について受けたことがあるかを聞いたところ、いずれかの行為を受けたことが『あった』という人は16.9%(「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」のいずれかを回答した人の計)となっており、約6人に1人が交際相手からの暴力の被害経験がある。

性別にみると、男性が10.0%、女性が22.3%となっており、女性の約4～5人に1人は交際相手からの暴力の被害経験がある。

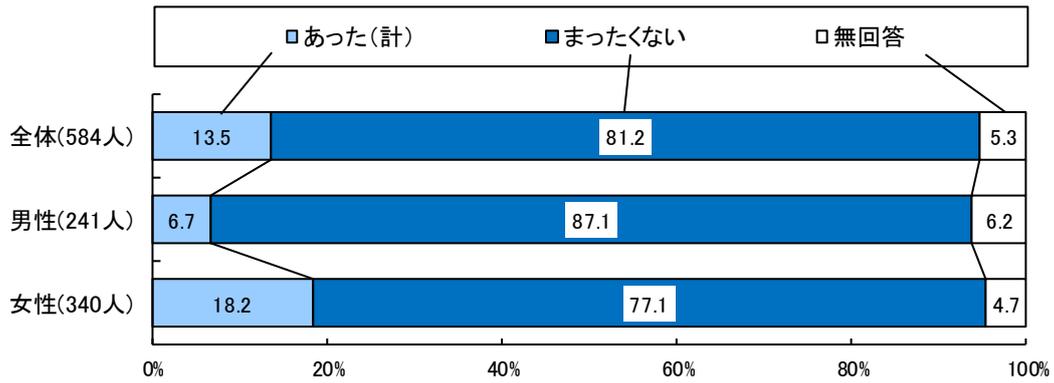
前回(H26)の調査結果と比較してみると、いずれかの行為を受けたことが『あった』という人は13.5%から16.9%と3.4ポイント上昇している。性別にみると、男女とも前回調査結果より上昇している(男性6.7%→10.0%、女性18.2%→22.3%)。

全国(H29)の調査結果と比較してみると、女性において、県の調査結果の方が、被害を受けたことがある人の割合が高い(全国21.4%→県22.3%)。

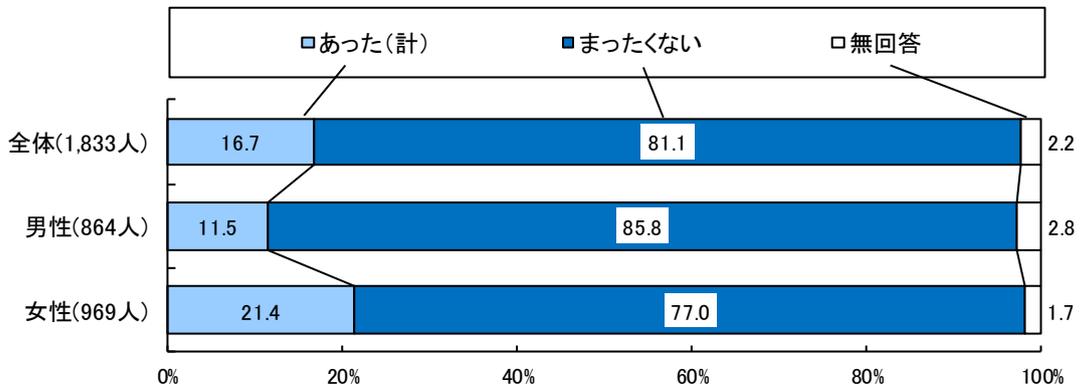
図 10-1 交際相手からの暴力の被害経験の有無



前回調査(H26)



内閣府調査(H29)



(図 10-2)

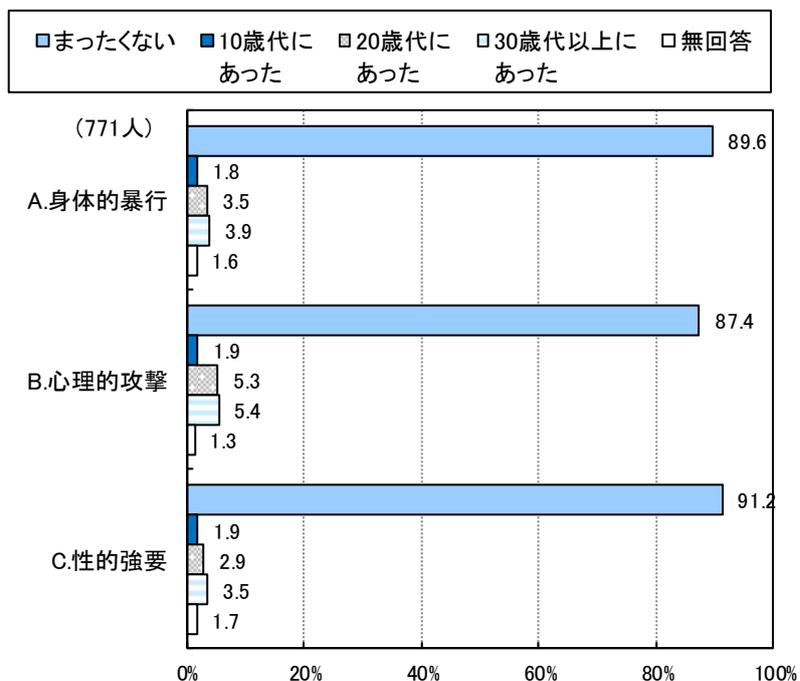
それぞれの行為をみると、“身体的暴行”は「10 歳代にあった」が 1.8%、「20 歳代にあった」が 3.5%、「30 歳代以上にあった」が 3.9%となっている。

“心理的攻撃”は「10 歳代にあった」が 1.9%、「20 歳代にあった」が 5.3%、「30 歳代以上にあった」が 5.4%となっている。

“性的強要”は「10 歳代にあった」が 1.9%、「20 歳代にあった」が 2.9%、「30 歳代以上にあった」が 3.5%となっている。

また、被害を受けた経験がある年代をみると、すべての行為で「30 歳代以上にあった」が最も高くなっている。

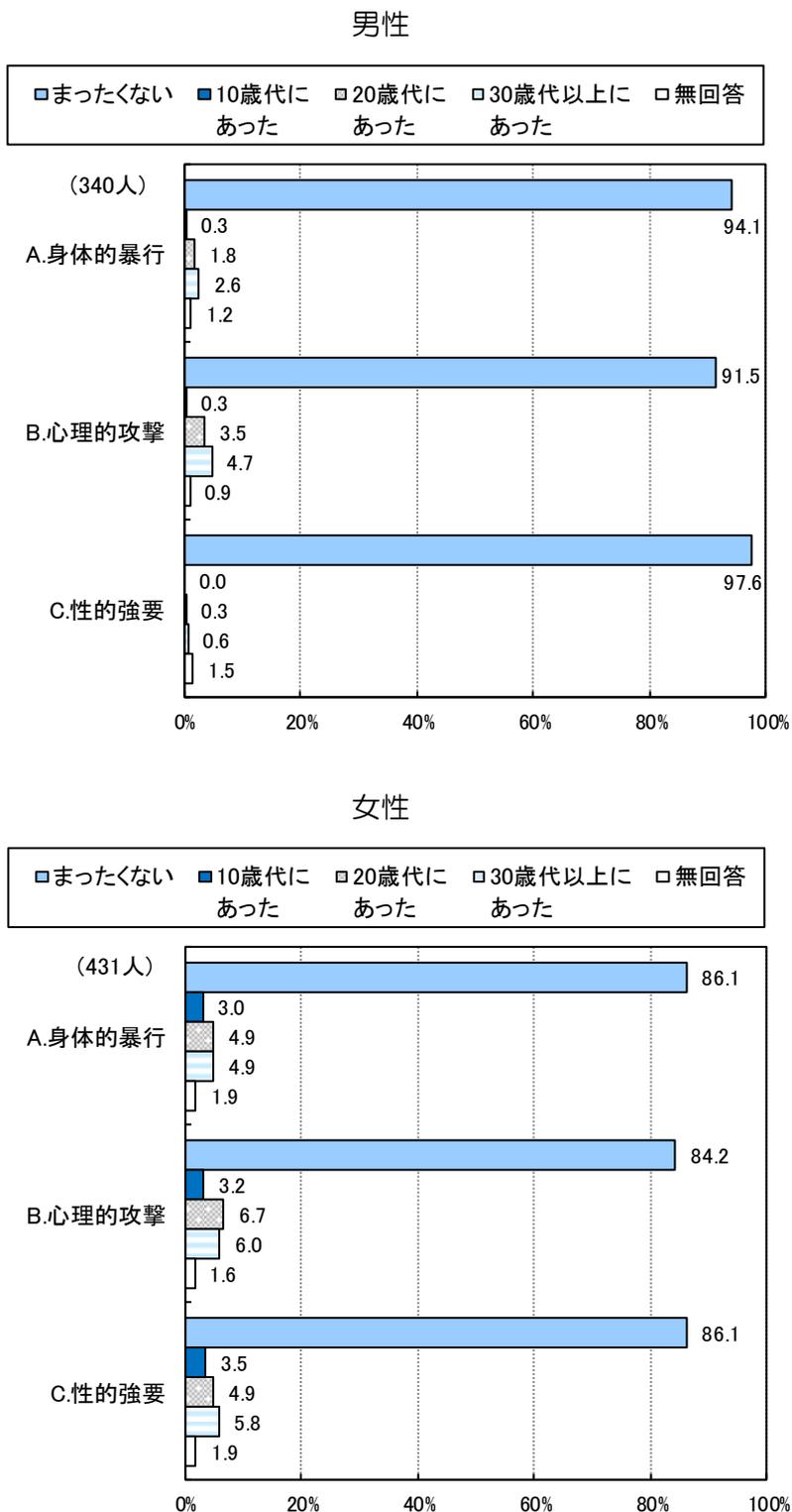
図 10-2 交際相手からの暴力の被害経験



(図 10-3)

交際相手からの暴力の被害経験を性別にみると、すべての被害経験で女性が男性を上回っている。

図 10-3 交際相手からの暴力の被害経験(性別)



1.1 交際相手からの暴力の被害に対する相談

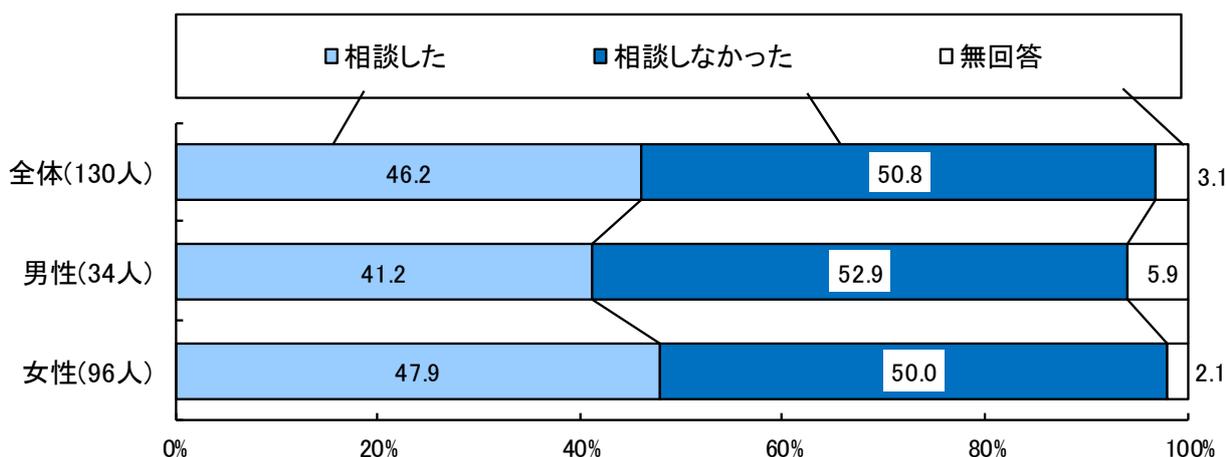
【問13でAからCのうちひとつでも、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」と答えた方にお聞きします。AからCのすべてが、「まったくない」という方は問19にお進みください。】

問14 あなたは、交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

(図 11-1)

交際相手からの暴力の被害を受けたことがある人(130人)に、その被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』としてまとめた。『相談した』は46.2%で、男性が41.2%、女性が47.9%となっている。

図 11-1 交際相手からの暴力の被害の相談の有無



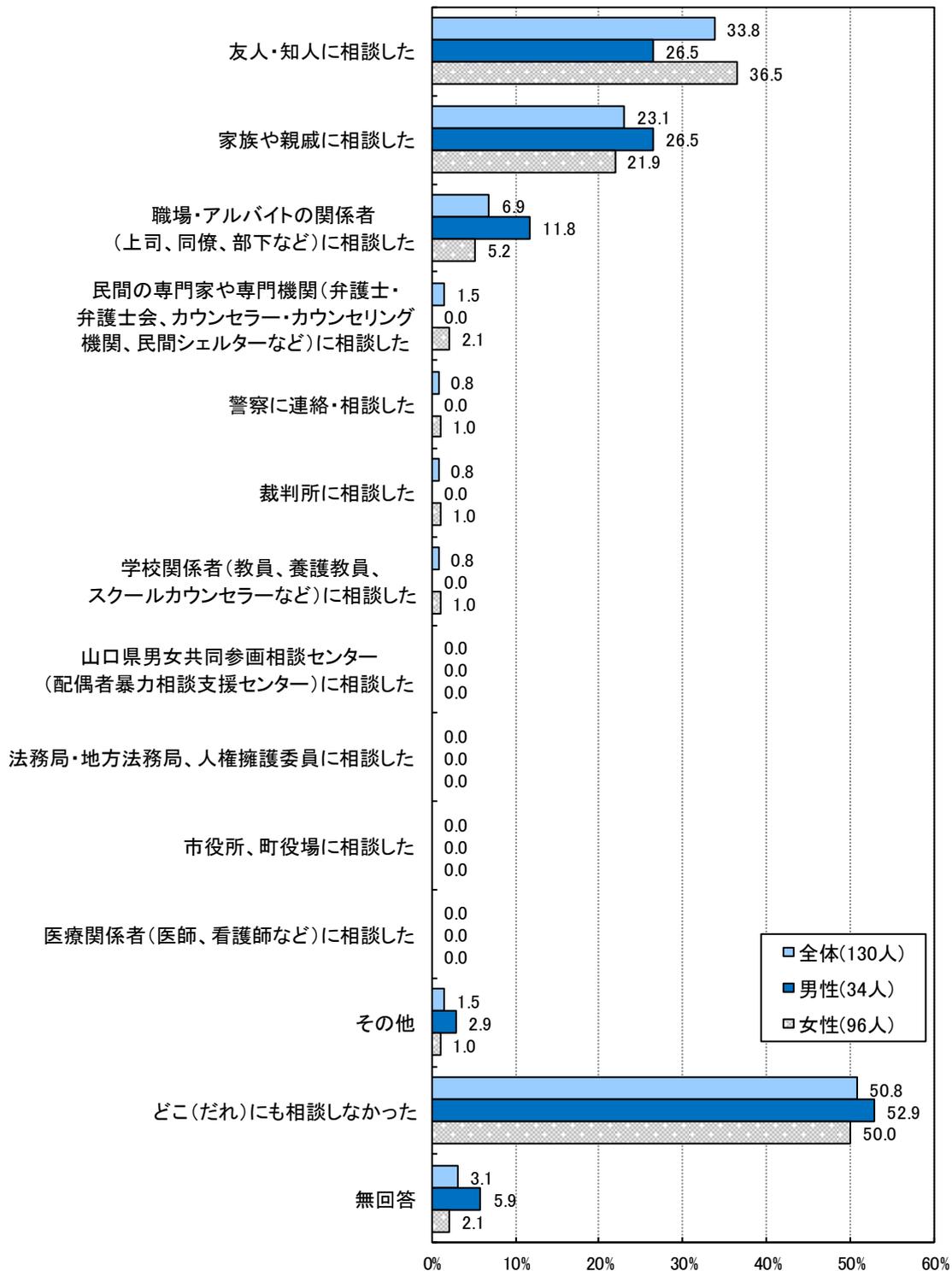
(図 11-2)

相談先をみると、「友人・知人に相談した」(33.8%)が最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」(23.1%)となっており、公的機関等は低くなっている。

性別にみると、男性は「友人・知人に相談した」、「家族や親戚に相談した」(26.5%)が最も高く、女性は「友人・知人に相談した」(36.5%)が最も高くなっている。

一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(50.8%)という人は半数を超えている。

図 11-2 交際相手からの暴力の被害の相談先



【問 14 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問15 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

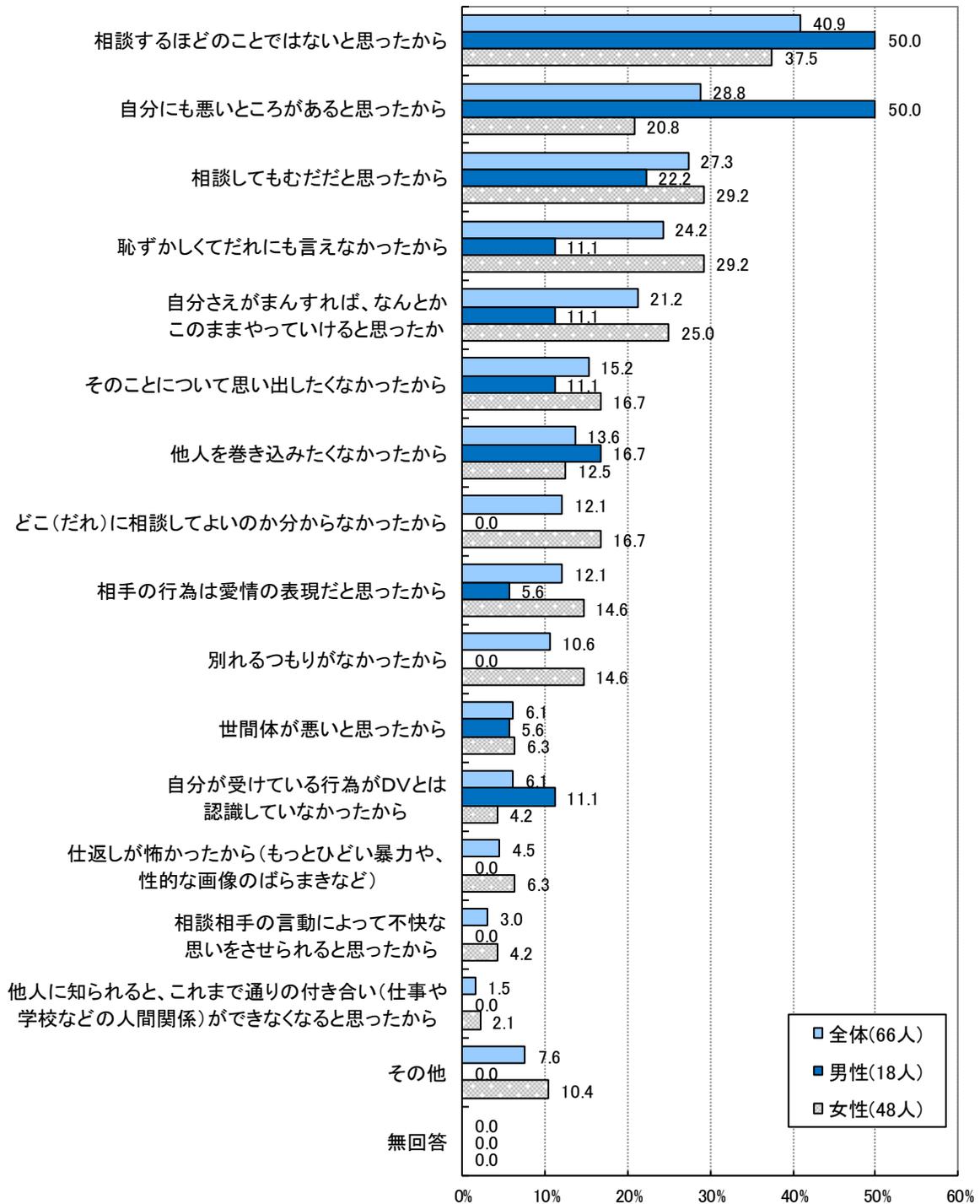
（図 11-3）

交際相手からの暴力の被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した人（66 人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」（40.9%）が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（28.8%）、「相談してもむだだと思ったから」（27.3%）、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」（24.2%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（21.2%）の順となっている。

性別にみると、「相談するほどのことではないと思ったから」（男性 50.0%、女性 37.5%）は 12.5 ポイント、「自分にも悪いところがあると思ったから」（同 50.0%、20.8%）は 29.2 ポイントと、それぞれ男性が女性を上回っている。

これに対し、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」（同 11.1%、29.2%）は 18.1 ポイント、「どこ（だれ）に相談してよいのか分からなかったから」（同 0.0%、16.7%）は 16.7 ポイントと、それぞれ女性が男性を上回っている。

図 11-3 交際相手からの暴力の被害について相談しなかった理由



1.2 交際相手からの暴力の被害を受けたときの行動

問 16、問 17 については、複数の交際相手から暴力を受けた方は、あなたがより深く傷ついた経験の 1 つについてお答えください。

【交際相手から、問 13 の A から C の行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】

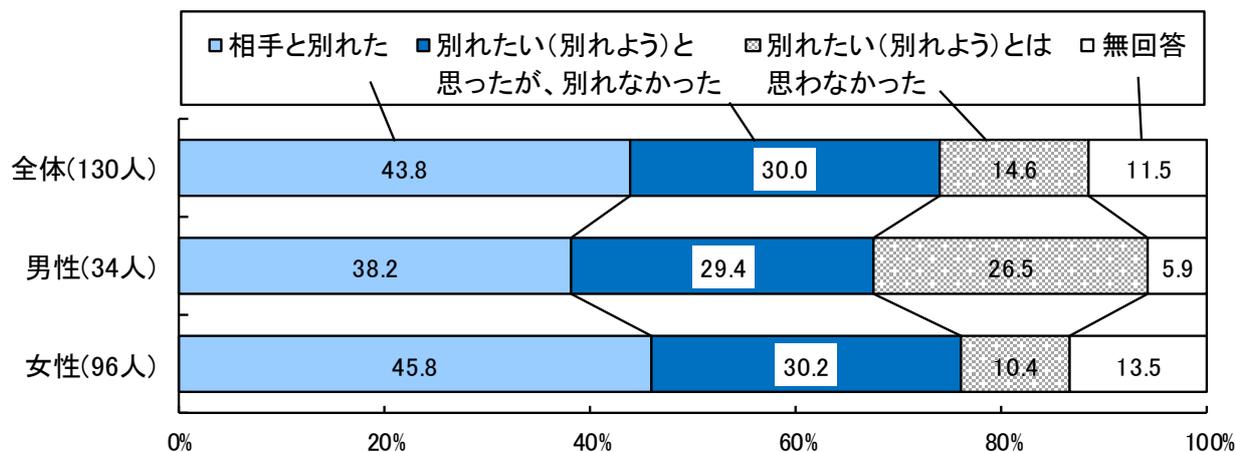
問 16 あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はひとつだけ)

(図 12-1)

交際相手からの暴力の被害を受けたことがある人(130人)に、その行為を受けたとき、どうしたか聞いたところ、「相手と別れた」が 43.8%、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が 30.0%、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が 14.6%となっている。

性別にみると、女性は「相手と別れた」(45.8%)が半数近くを占めている一方、男性は「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が 29.4%、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が 26.5%で、結果的に『別れなかった』という人がほぼ半数を占めている。

図 12-1 交際相手からの暴力の被害を受けたときの行動



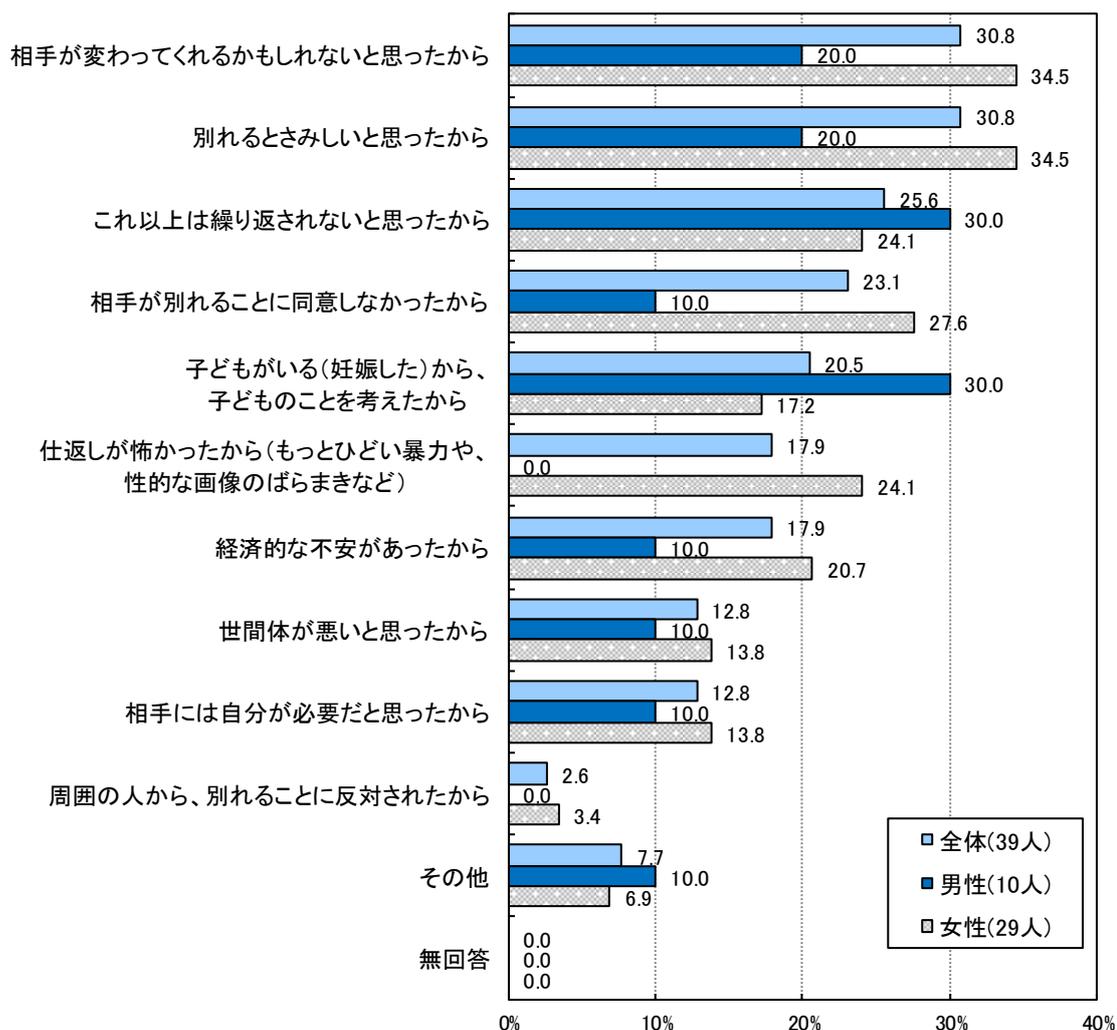
【問 16 で「2 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きます。】
 問17 あなたが、交際相手と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図 12-2)

交際相手からの暴力の被害を受けたとき、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した人(39人)に、別れなかった理由を聞いたところ、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」、「別れるときみしいと思ったから」(30.8%)が最も高く、次いで「これ以上は繰り返されないと思ったから」(25.6%)、「相手が別れることに同意しなかったから」(23.1%)の順となっている。

性別にみると、男性は「これ以上は繰り返されないと思ったから」、「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」(30.0%)が最も高く、女性は「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」、「別れるときみしいと思ったから」(34.5%)が最も高くなっている。

図 12-2 交際相手と別れなかった理由



1 3 交際相手からの暴力による命の危険を感じた経験

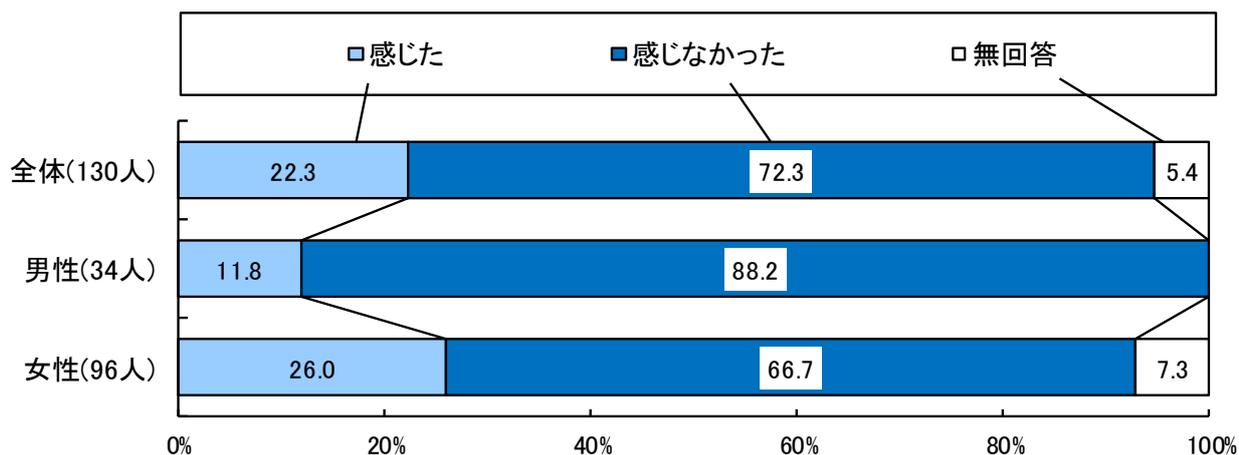
【交際相手から、問 13 の A から C の行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】
問18 あなたはこれまでに、交際相手から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。 (○はひとつだけ)

(図 13-1)

交際相手からの暴力の被害を受けたことがある人(130人)に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるか聞いたところ、「感じた」という人は22.3%、「感じなかった」という人は72.3%となっている。

性別にみると、命の危険を「感じた」(男性11.8%、女性26.0%)は、女性が男性を14.2ポイント上回っている。

図 13-1 交際相手からの暴力による命の危険を感じた経験



14 性暴力の被害経験

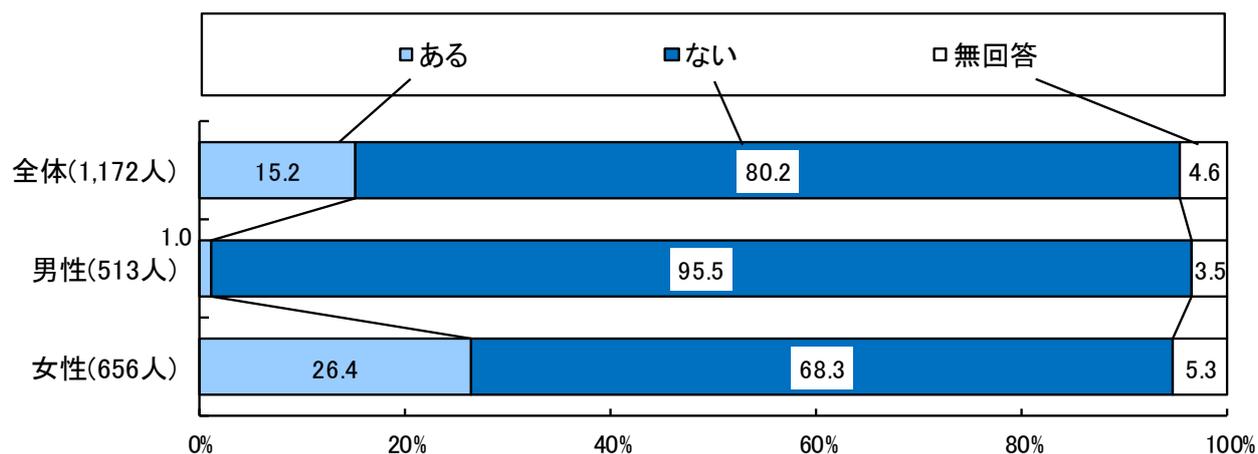
問19 あなたはこれまでに、性暴力（性交、身体を触られる、痴漢、盗撮などの同意のない・望まない性的な行為）を受けたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。
(○はひとつだけ)

(図 14-1)

これまでに、性暴力(性交、身体を触られる、痴漢、盗撮などの同意のない・望まない性的な行為)の被害を受けたことがあるかを聞いたところ、「ある」という人が 15.2%となっている。

性別にみると、性暴力を受けたことのある男性は 1.0%、女性は 26.4%となっており、女性の約 4人に1人は性暴力の被害経験がある。

図 14-1 性暴力の被害経験の有無

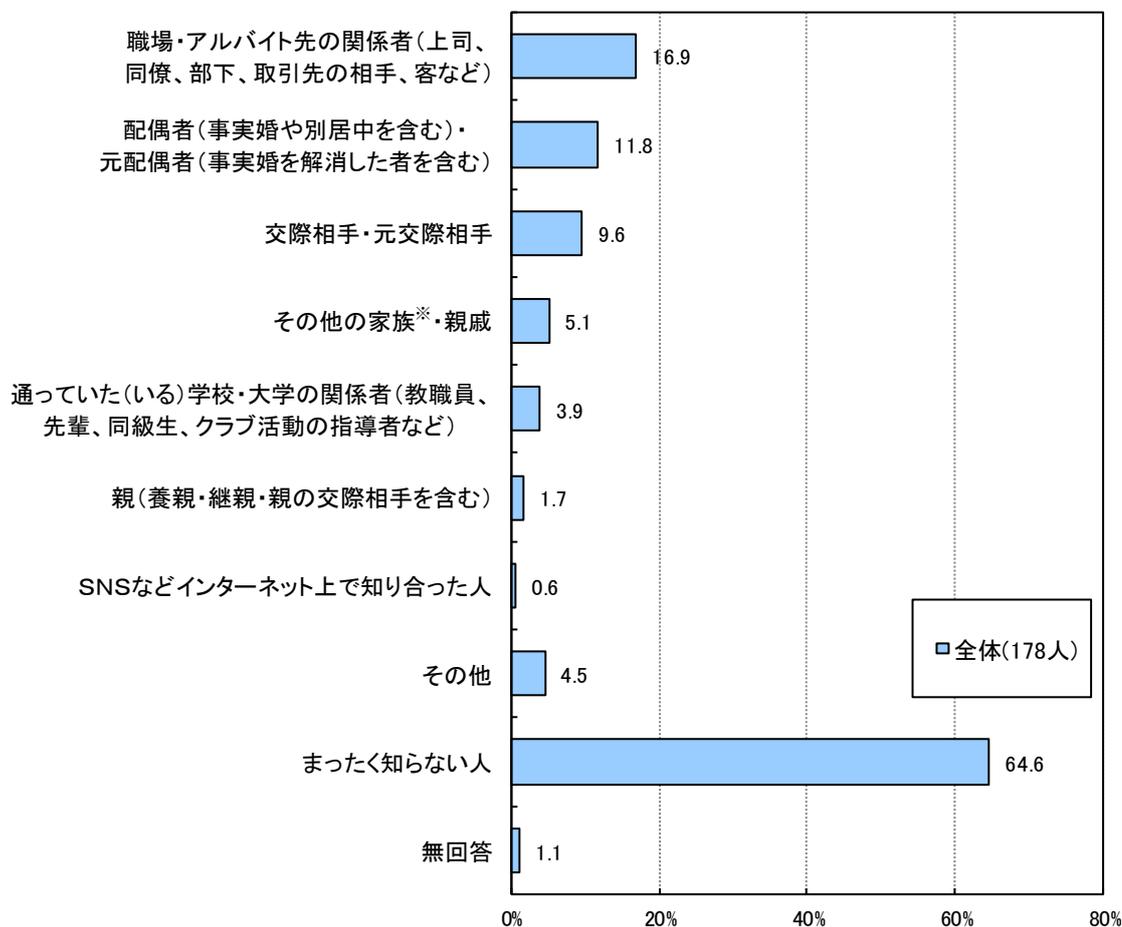


【問19で「1 ある」と答えた方にお聞きします。「ない」という方は問24にお進みください。】
 問20 加害者はあなたとどのような関係でしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 (○はいくつでも)

(図 14-2)

性暴力の被害を受けたことがあると回答した人(178人)に、加害者との関係を聞いたところ、「まったく知らない人」が64.6%と最も高く、次いで「職場・アルバイト先の関係者(上司、同僚、部下、取引先の相手、客など)」(16.9%)、「配偶者(事実婚や別居中を含む)・元配偶者(事実婚を解消した者を含む)」(11.8%)、「交際相手・元交際相手」(9.6%)、「その他の家族※・親戚」(5.1%)の順となっている。

図 14-2 加害者との関係



※その他の家族：配偶者(事実婚や別居中を含む)及び親(養親・継親・親の交際相手を含む)以外の家族

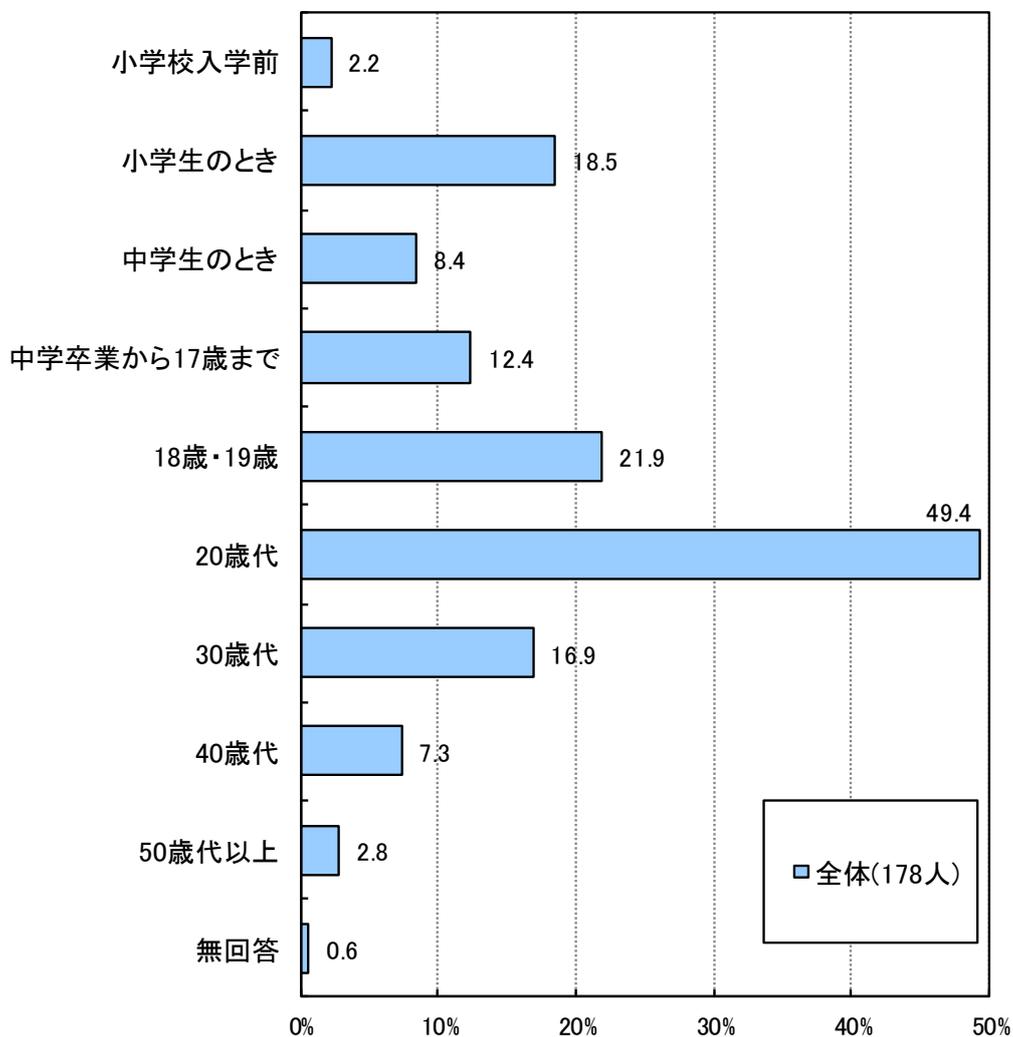
(注) 性暴力の被害経験のある男性が少ないため、男女計で示す
 (以下、図 15-1 を除き、問 23 まで同じ)

問21 被害にあったのはあなたがいくつのときでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図 14-3)

性暴力の被害を受けたことがあると回答した人(178人)に、被害にあったのはいくつのときか聞いたところ、「20歳代」が49.4%と最も高く、次いで「18歳・19歳」(21.9%)、「小学生のとき」(18.5%)、「30歳代」(16.9%)、「中学卒業から17歳まで」(12.4%)の順となっている。

図 14-3 性暴力の被害にあった時期



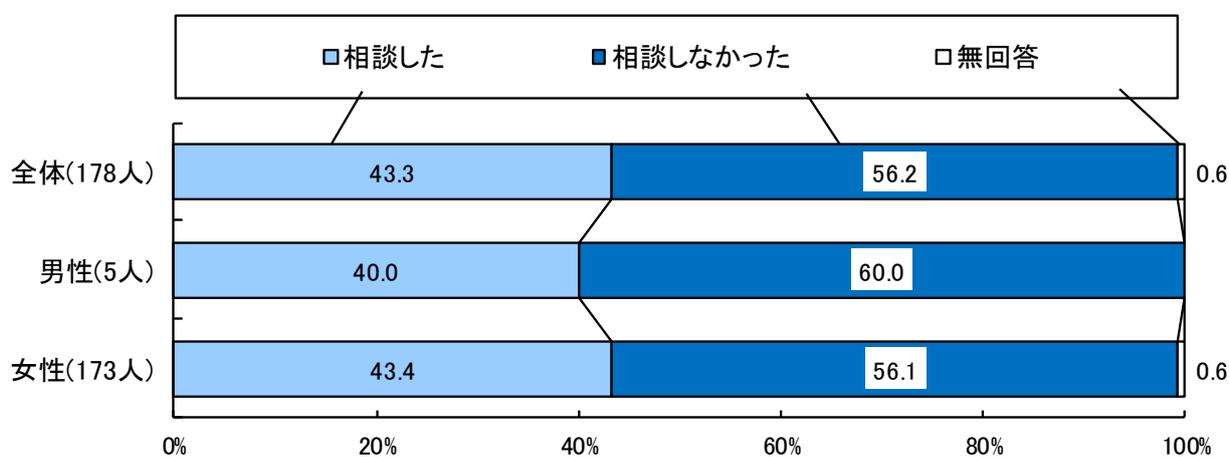
15 性暴力の被害に対する相談

問22 あなたはこれまでの被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図 15-1)

性暴力の被害を受けたことがあると回答した人(178人)に、その被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』としてまとめた。『相談した』が43.3%で、男性が40.0%、女性が43.4%となっている。

図 15-1 性暴力の被害の相談の有無

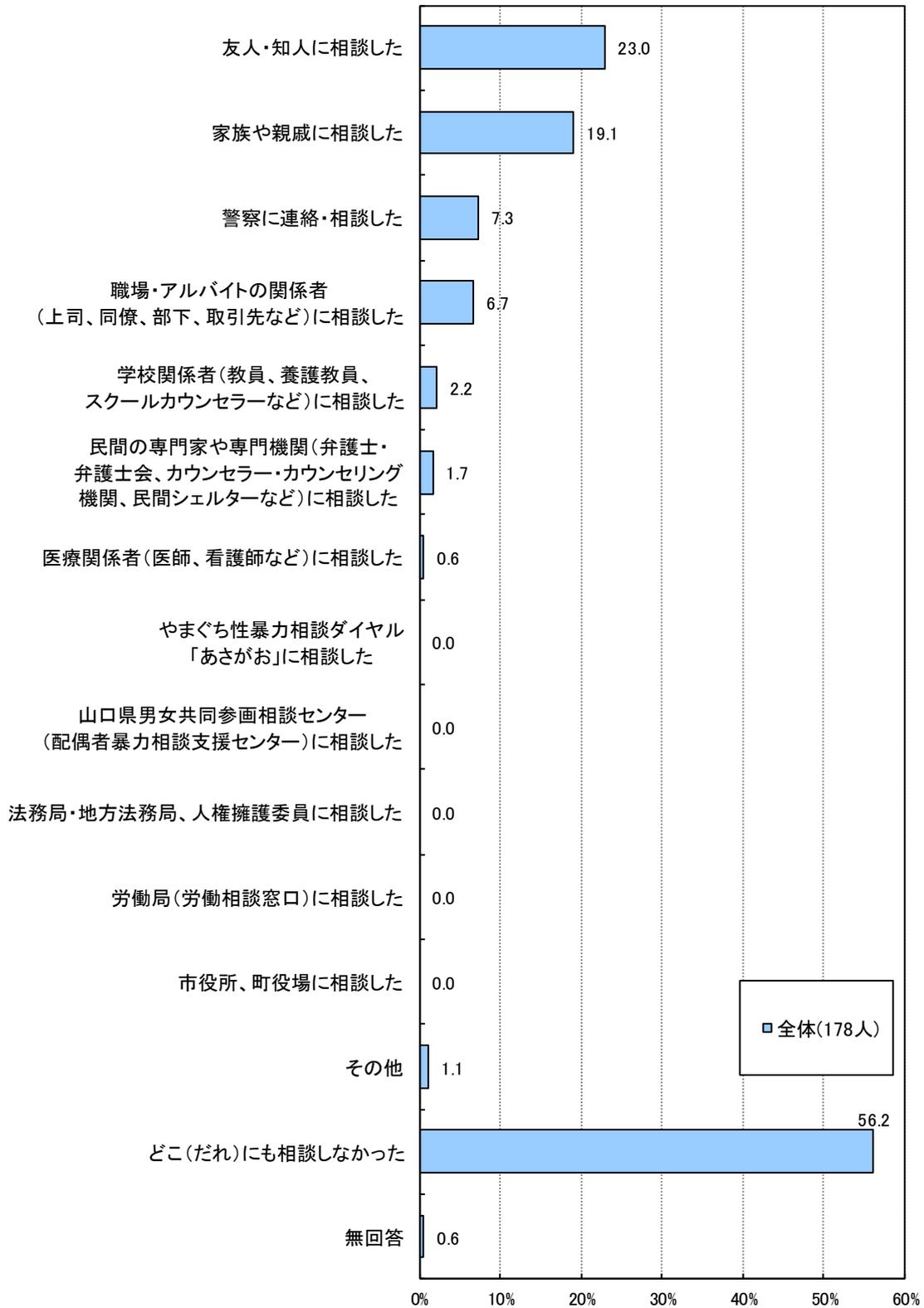


(図 15-2)

相談先をみると、「友人・知人に相談した」が23.0%と最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」が19.1%と身近な人へ相談したという人が他の相談先より高くなっている。その他では、「警察に連絡・相談した」(7.3%)、「職場アルバイト先の関係者(上司、同僚、部下、取引先など)に相談した」(6.7%)の順となっている。

一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(56.2%)は半数を超えている。

図 15-2 性暴力の被害の相談先



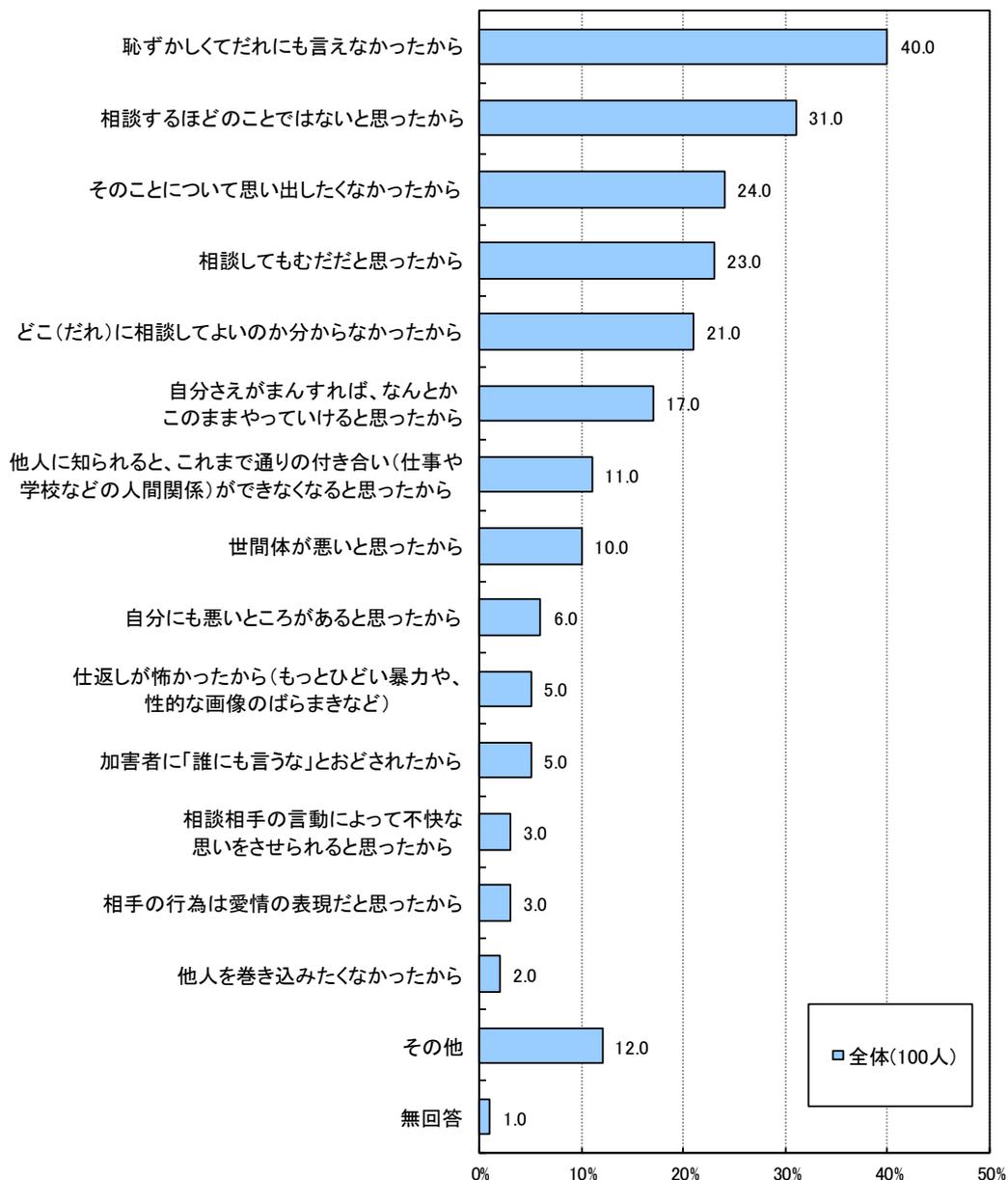
【問22で「14 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問23 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

(図 15-3)

性暴力の被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人(100人)に、相談しなかった理由を聞いたところ、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が40.0%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(31.0%)、「そのことについて思い出したくなかったから」(24.0%)、「相談してもむだだと思ったから」(23.0%)、「どこ（だれ）に相談してよいか分からなかったから」(21.0%)の順となっている。

図 15-3 性暴力の被害について相談しなかった理由



16 やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」の周知度

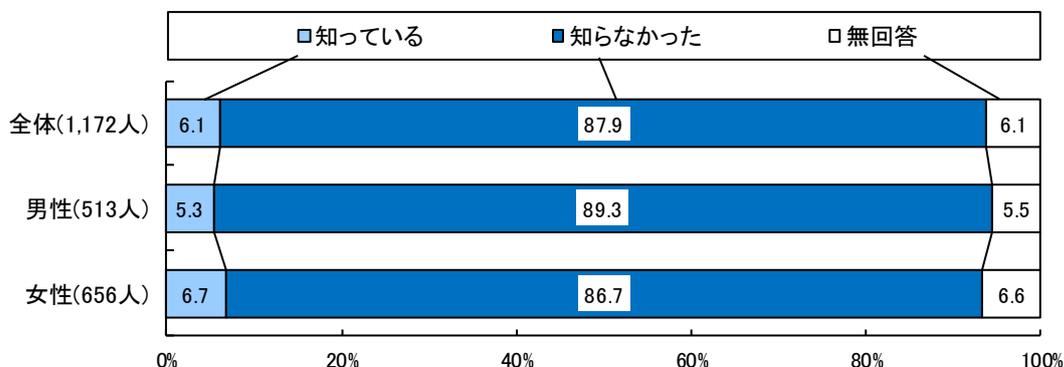
問24 あなたは、やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」 ☎083-902-0889 (おはやく)を知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はひとつだけ)

(図 16-1)

やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」を知っているか聞いたところ、「知っている」が6.1%、「知らなかった」が87.9%となっている。

性別にみると、「知っている」と回答した人は、男性で5.3%、女性で6.7%となっている。

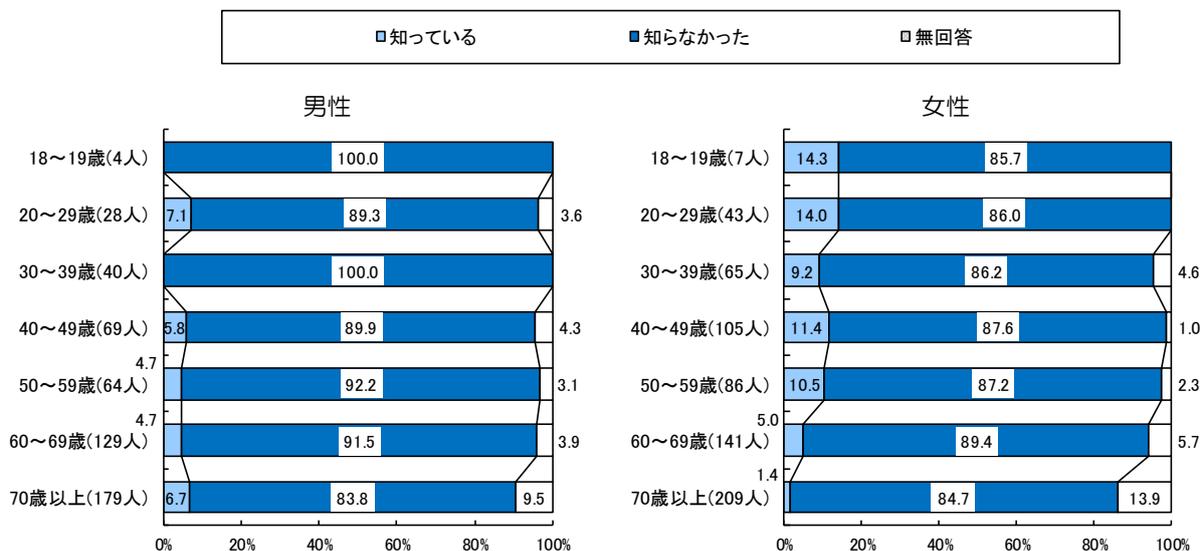
図 16-1 やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」の周知度



(図 16-2)

性・年齢別にみると、男性は18～19歳、30歳代で周知されておらず、女性は50歳代までは約1割が「知っている」と回答しており、60歳代以上は周知度が低くなっている。

図 16-2 やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」の周知度(性・年齢別)



【問24で、「1 知っている」と答えた方にお聞きします。】

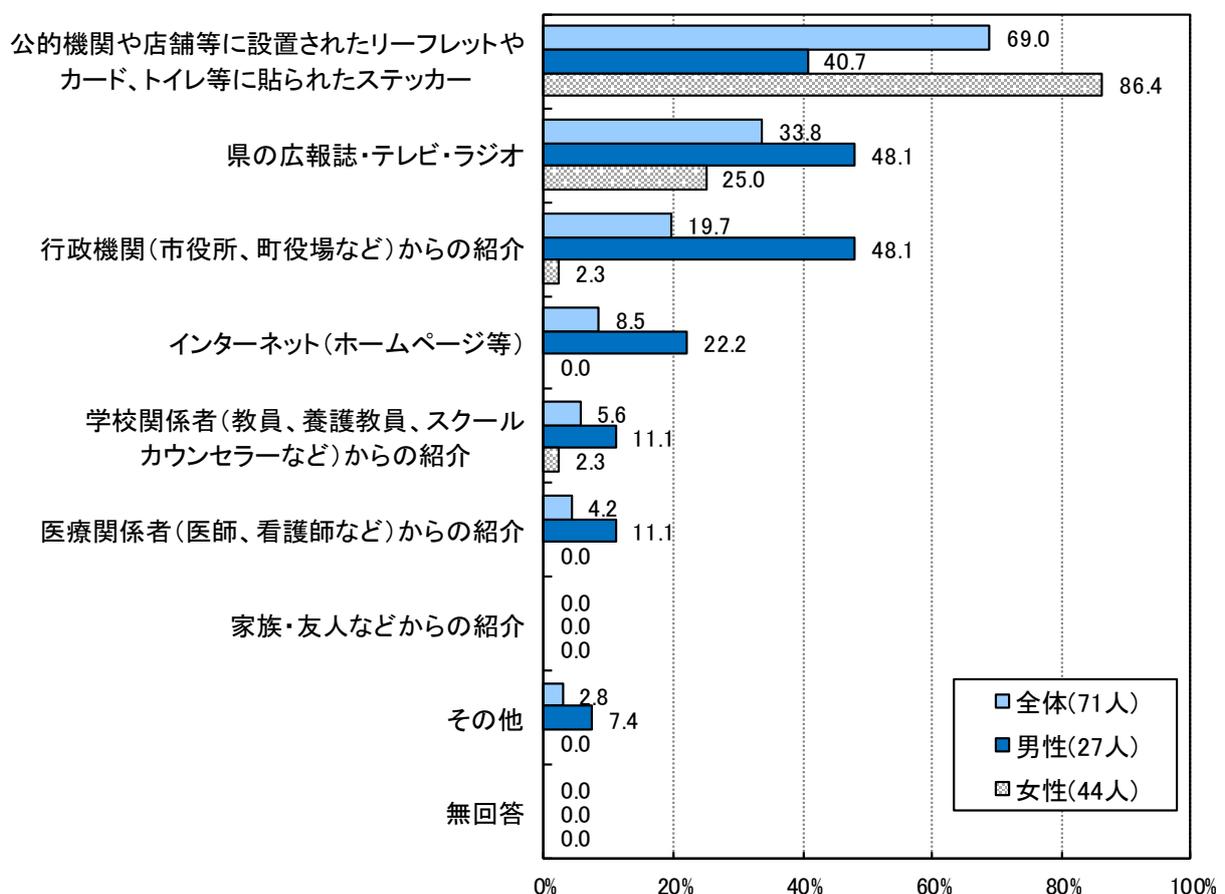
問25 あなたは、やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」について、どのように知りましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図 16-3)

やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」について知っているとは回答した人(71人)に、どのようにして知ったか聞いたところ、「公的機関や店舗等に設置されたリーフレットやカード、トイレ等に貼られたステッカー」が69.0%と最も高く、次いで「県の広報誌・テレビ・ラジオ」(33.8%)、「行政機関(市役所、町役場など)からの紹介」(19.7%)、「インターネット(ホームページ等)」(8.5%)の順となっている。

性別にみると、女性は「公的機関や店舗等に設置されたリーフレットやカード、トイレ等に貼られたステッカー」(86.4%)が最も高い。「県の広報誌・テレビ・ラジオ」、「行政機関(市役所、町役場など)からの紹介」、「インターネット(ホームページ等)」、「学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)からの紹介」、「医療関係者(医師、看護師など)からの紹介」においては、女性より男性で高くなっている。

図 16-3 やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」を知ったきっかけ



17 特定の相手からのつきまとい行為

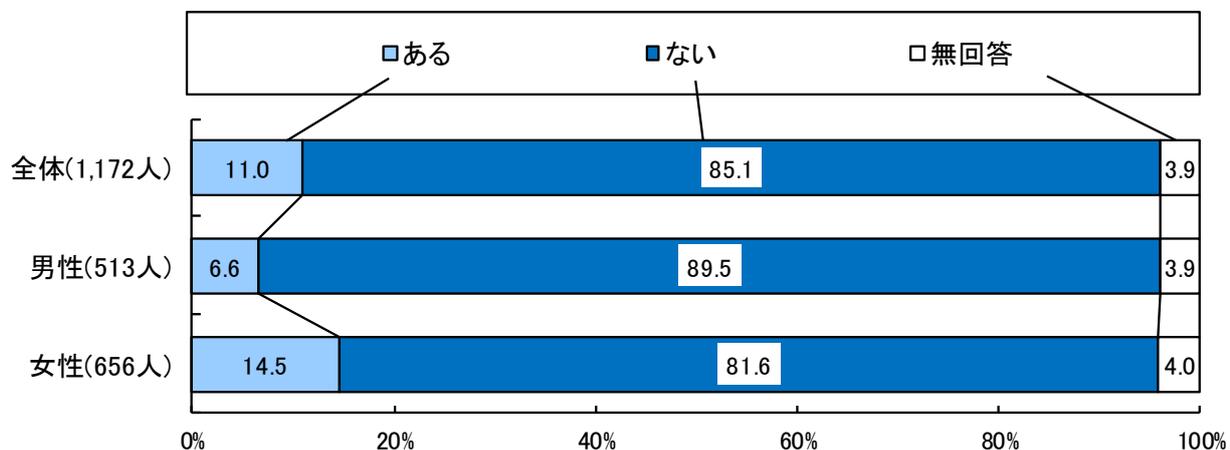
問26 あなたはこれまでに、あなたはいやなのに、ある特定の相手にしつこく、つきまとわれたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はひとつだけ)

(図 17-1)

ある特定の相手にしつこく、つきまとわれた経験の有無について聞いたところ、「ある」が11.0%、「ない」が85.1%となっている。

性別にみると、特定の相手からつきまとわれた経験のある男性は6.6%、女性は14.5%となっている。

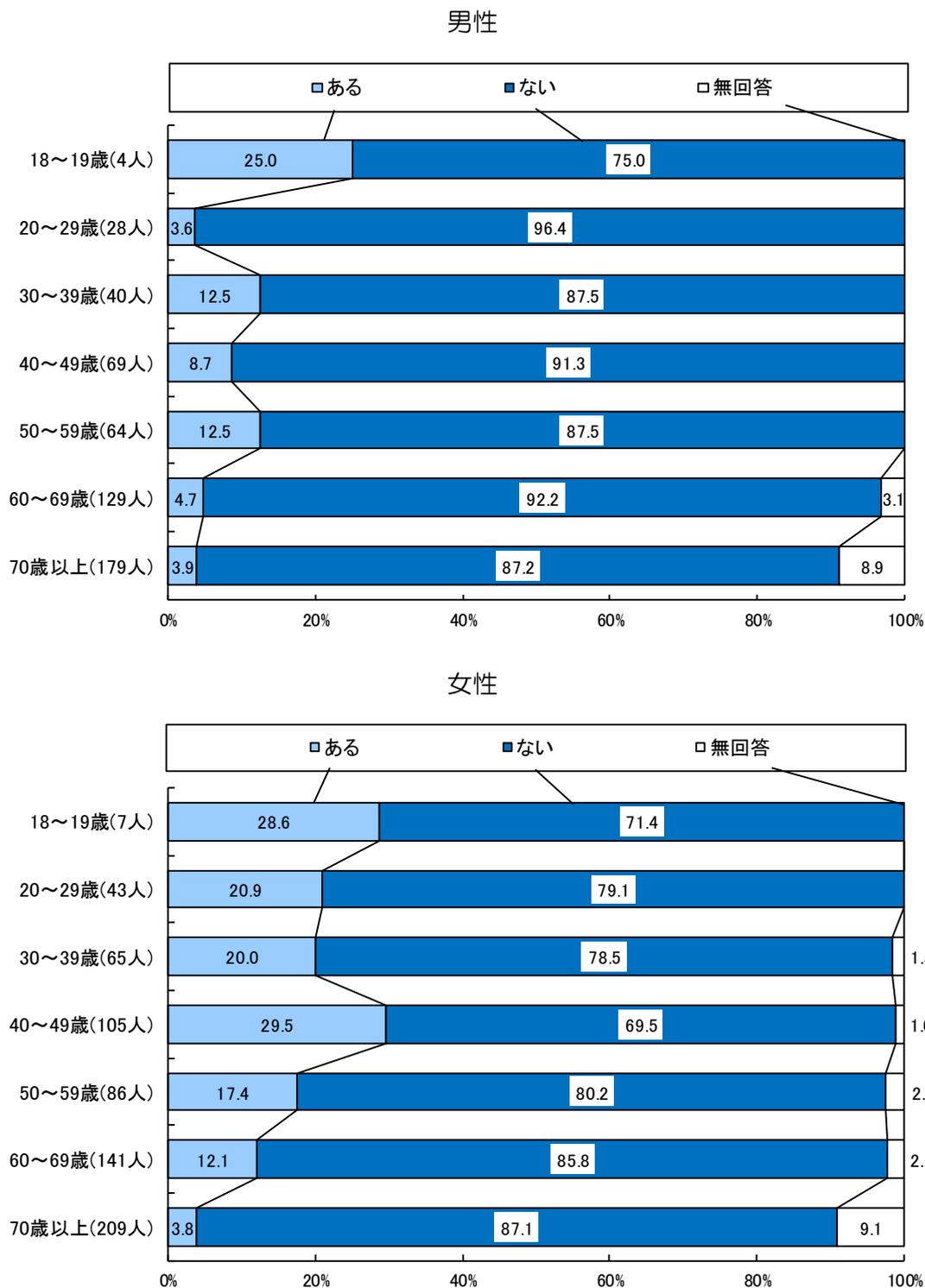
図 17-1 特定の相手からつきまとわれた経験



(図 17-2)

性・年齢別にみると、特定の相手からつきまとわれた経験が「ある」と答えた割合は、女性の18～19歳から40歳代で20.0%以上となっている。

図 17-2 特定の相手からつきまとわれた経験(性・年齢別)



18 男女間の暴力をなくすための方法

問27 あなたは、男女間における暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(図 18-1)

配偶者間や交際相手同士など男女間における暴力をなくすためにはどうしたらよいと思うか聞いたところ、「社会のあらゆる分野で人権尊重や暴力を許さない意識を醸成するための啓発を行う」(53.7%)が最も高く、次いで「学校における男女平等や人権についての教育を充実させる」(53.1%)、「犯罪の取り締まりを強化する」(51.5%)、「法律や制度の見直しを行う」(47.6%)、「家庭における男女平等や人権についての教育を充実させる」(43.6%)となっている。

性別にみると、男性は「社会のあらゆる分野で人権尊重や暴力を許さない意識を醸成するための啓発を行う」(56.9%)が最も高く、女性は「学校における男女平等や人権についての教育を充実させる」(53.8%)が最も高くなっている。また、「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」(男性 30.0%、女性 38.6%)では、女性が男性を 8.6 ポイント上回っている。

図 18-1 男女間の暴力をなくすための方法

